学習の遅れや行動に課題のある子どものための
支援ハンドブック

モンゴル国

障害児のための教育改善プロジェクト

2019 年

ННА-74.3
ДАА-371.9
Х-Б-146

ISBN: 978-9919-9519-5-5

学習の遅れや行動に課題のある子どものための支援ハンドブック

目次

I. はじめに 1
II. チェックリスト 1
III. ニーズの理解と具体的な支援方法 4
1. 聞く 4
2. 話す 5
3. 読む 6
4. 書く 7
5. 計算する 8
6. 時間・空間・因果関係を理解する 9
7. 身体を動かす 10
8. 対人関係 11
9. 行動（注意散漫） 12
10. 行動（多動・衝動性） 13
IV. パイロット校における子どものニーズに応じた指導法支援の取り組みの事例 14

I. はじめに

みなさんの学級に、知的な遅れはないけれど、教科書の文章を飛ばして読む子ども、文字を反対に書いてしまう子ども、聞いたことをすぐに忘れてしまう子どもなどはいませんか。また、何度教えてもなかなか計算ができるようにならない子どもや教室を飛び出していってしまう子どもはいませんか。そういったお子さんは、実は表には見えてこない課題をもっているかもしれません。

たとえば、文字を書くときに、字の大きさがばらばらで、ノートの線からはみ出して書いたり、鏡文字を書いたり、文字を上手に書けない子どもがいます。文字を書くときには、いくつかの能力を必要とします。まず、文字の形を正確に覚えなくてはいけません。書き順も覚える必要があります。単語を書く時には、適切な文字を選んで正しい綴りで文字を並べなければなりません。文字をどこに書けばよいか、場所を確認する力も必要になります。そして、鉛筆を手で動かし、文章全体のバランスを考えて大きさなどを調整しなくてはなりません。字の大きさがばらばらでも、それはどういったことが要因でばらばらになってしまうのかを把握する必要があります。原因を把握することで、適切な支援ができるようになり、少しずつ改善が見られるようになります。

本書は、主に通常学校の教員のみなさんに向けて、クラスの中で問題を抱えている子どもの課題把握と指導のためのヒントを記載しています。また、プロジェクトのパイロット通常学校において、実践も行い、その事例も記載しています。

II. チェックリスト

このチェックリストは、普段の学校生活や授業で課題のある子どもたちのどこにニーズがあるのかを把握することを目的としています。障害の判別を目的としたものではありません。

チェックリストの記入方法・留意事項

1. 下記にあるチェックリストは 4 人の子どもまで記入することができます。学年と、各児童生徒の出席番号やイニシャルなど、後から教員が子どもを特定できる情報を記入してください。

2. 子ども一人ひとりを目の前にしてやる必要はありません。教員が一人ひとりを思い浮かべて回答してください。

3. 項目は「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、「計算する」、「時間・空間・因果関係を理解する」、「身体を動かす」、「対人関係」「行動する」にわかれています。それぞれの項目の質問について、以下の基準に従って点数を入れてください。
「あてはまる」→4

「ややあてはまる」→3
「どちらかといえばあてはまらない」→2
「あてはまらない」→1

4. チェックするときは、「同学年の他の子どもと比較してどうか」を判断の基準としてください。

5. 必ずすべての項目に点数を入れるようにしてください。

「どちらかといえばあてはまらない（2 点）」、「あてあまらない（1 点）」がある場合、4 ページ以降に記載してある項目ごとの具体的な支援を参照して、学校生活や授業の中で支援を検討してください。

8. チェックリストでてきた点数は、子ども一人ひとりのニーズを把握し、具体的な指導が行えるようにするためのもので、成績や診断の値ではないことにご留意ください。

9. 個人情報の取り扱いには十分に注意し、必要に応じて保護者とも情報共有をおこなってください。

チェックリスト

学年：		番号	番号	番号	番号
	項目				
1.聞く					
1	集中して相手の話を聞くことができる。				
2	聞いたことを忘れずに覚えている。				
3	個別に言われた時も、集団場面においても、指示を理解して従うことができる。				
4	クラスでの話し合いをよく理解し、積極的に参加する。				
2.話す					
1	同学年の子ども相応もしくはそれ以上の語彙をもっている。				
2	文法的に誤りのない、完全な文で話す。				
3	筋道を立てて、経験や自分の考えを述べることができる。				
4	友だちと学年相応の会話をすることができる。				
3.読む					
1	アルファベット一つひとつの名前がわかる。（例えば、A をエイと読める）				
2	アルファベット一つひとつの発音の仕方がわかる（例えば、A をアと読める）（構音障害の場合を除く）。				
3	長母音と二重母音、ヤ、イェ、ヨ、ヨ-の入った音節や単語を正しい発音で読める。				
4	文字を飛ばしたり、勝手読みをしないですらすらと音読ができる（吃音の場合を除く）。				
5	活字体で書かれた文も、筆記体で書かれた文も正しく読める。				

4.書く					
1	アルファベットを聞いて正しく書ける。				
2	単語を聞いて正しく書ける。				
3	長母音と二重母音、ヤ、イェ、ヨ、ヨ-の入った音節や単語を聞いて正しく書ける。				
4	似ている形の文字を区別して正しく書くことができる。				
5	活字体の文字も、筆記体の文字も正しく書ける。				
5.計算する					
1	指を使わずに 1 桁同士の数の足し算・引き算ができる。				
2	繰り上がりや繰り下がりのある計算が同じ学年の子どもと同じくらいにできる。				
3	同じ学年の子どもと同じくらいに文章題を解くことができる。				
4	九九を覚えている。				
6.時間・空間・因果関係を理解する					
1	なぜこうなったのかという理由を正しく理解することができる。				
2	位置や空間を表すことば（右左・東西南北など）を正しく理解している。				
3	図形を正しく模写することができる。				
4	時計を正しく読んだり、時間を表すことばを正しく理解したりできる。				
7.身体を動かす					
1	ハサミを使う、ボタンをかけるなどの手先の操作は器用にできる。				
2	きれいな整った文字を書くことができる。				
3	なわとびやボール投げが学年相応にできる。				
4	鉄棒やマット運動が学年相応にできる。				
8.対人関係					
1	休み時間や放課後に友達と遊ぶことができる。				
2	ルールを守って遊ぶことができる。				
3	相手に配慮しながら仲間と協力して活動することができる。				
4	「貸して」「ありがとう」「ごめんなさい」などが適切に言える。				
9.行動する					
1	目的に沿って行動を計画し、指示されなくても順序通りに行動することができる。				
2	気が散ったり、そわそわと身体を動かしたりせずに課題に集中することができる				
3	忘れ物や物をなくすことがなく、身の回りの物を散らかさずに整理できる。				
4	自分勝手なおしゃべりをせずに、話を最後まで聞くことができる				
5	衝動的にならずに感情をコントロールし、落ち着いて行動することができる。				
6	予期せぬ状況になっても気持ちを切りかえることができる。				
	合計				

III. ニーズの理解と具体的な支援方法

1. 聞く

-こんな子どもがあてはまります

集中して相手の話を聞くことが苦手。 一度聞いたことをいつも覚えられない。 指示された内容を理解して従うことができない。 クラスでの話し合いに参加しない。 聞き間違いが多い。

-考えられる原因

注意が逸れやすい。 言葉を理解する力が弱い。 耳で聞いた情報を上手に脳で処理して理解することが難しい。 耳で聞いた情報を正しく記憶することができない。（聴覚的な短期記憶の困難） 聴覚に問題がある（この場合は、病院で検査をしましょう）

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	集中して一斉の指示を聞けない場合は、話し手の顔を見るように促したり、肩に手を置いたりして顔を向き合わせてから話をするようにしましょう。 目で見て分かる絵カードを見せたり、文字を使って書き出したりして、耳で聞くだけの場面を減らしてあげる。 一度に多くの内容を話すのではなく、短い文でひとつずつ理解を確認しながら伝えるようにする。 クラスの前の方に座ってもらうようにする。 抽象的な言葉の使用を避け、具体的な言葉で説明しましょう。
子どもに促したい行動	話を聞くときには話し手の顔を見るように促しましょう。 分からないことがあったら質問するように促しましょう。 高学年の子どもの場合、メモ帳をつねに持たし、聞いたことを忘れないようにメモしてもらうようにしましょう。その際、教員は重要なポイントを強調してあげると、メモがとりやすくなります。

2. 話す

-こんな子どもがあてはまります

同年代の子どもに比べて短く単純な文で話す。 話すときの文の文法に誤りが多い。 筋道を立てて、自分の経験や昨日の出来事などを話すことができない。 同年代の友達と、年齢相応の会話ができない。

-考えられる原因

知っている語彙が少ない。 自分の考えをまとめることが難しい。 複雑な構文で表現することに慣れていない。 興味の幅が狭い。 自分が話していることばにつられて、はじめに言おうとしたことから逸れてしまう。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	子どもが言おうとしている内容について、短い文で表現のモデルを提示する。 子どもが表現した文を適切な形に直して聞かせる/書いて示す。 誰が、どこで、いつ、なにを、どうしたか、など、文章に入れなければならないことをヒントとして出してあげる。 一問一答形式で質問する。 話す内容やテーマを確認してから話してもらいましょう。 話すことが負担にならないよう、楽しく話す場面を増やす。
子どもに促したい行動	子どもが好きなものや、昨日の出来事など、子どもが話しやすい話題を選んで話してもらいましょう。 絵やあらかじめ書いておいた単語など、視覚的なヒントを見ながら話すよう促しましょう。 質問に完全な文章で答えるよう促しましょう。不完全な文の場合は、表現のモデルを聞かせましょう。

3. 読む

-こんな子どもがあてはまります

会話では発音に誤りはないのに、モンゴル語の文字 1 文字 1 文字を正しく発音することができない。 長母音や、ヤ、ヨ、イェの入った音節や単語を正しい発音でよむことができない。 文章を読んでいると、文字を飛ばしたり勝手に違うように読んだりすることがある。 文章の内容を正しく読みとることができない。

-考えられる原因

文字と音との対応のルールが十分に身についていない。 文字のまとまりを音に置き換えたり、意味のあることばに対応づけたりすることが難しい。 読んでいる部分を目で追うことができていない。 読んでいるときに違うこと（文字の形やスペースなど）に注意がいって、言葉の意味を把握することに集中できていない。 文と文の関係性の理解が難しい。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	すべての文字の入った絵カードを 1 枚ずつ見せ、一緒に発音する。 長母音や、ヤ、ヨ、イェなど、読みにくい部分に印をつけて気づかせる。 単語のレベルで正しく読める練習をしてから、その単語が含まれる文の読みに入りましょう。 重要な部分にマーカーを引いてあげましょう。 読みやすいように文字の大きさや単語と単語の間隔を工夫する。
子どもに促したい行動	読んでいるところを指で押さえながら読む。 1 行だけ見えるページカバーを利用たり、定規をあてたりして、読んでいるところ以外の情報が入らないようにして読むように促しましょう。

4. 書く

-こんな子どもがあてはまります

黒板の文字を見て書き写すことが難しい。 ノートの線からはみ出して書いてしまう。 ディクテーションを間違う。 鏡文字を書く。 似ている文字を間違えて書く。

-考えられる原因

文字の形を認識することができない。 写す部分がどこかわからない。 細かい部分に注意が向かずに間違えてしまう。 聞いた言葉を文字に置き換えられない。 姿勢や鉛筆の持ち方が悪い。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	一行ごとの行間が大きいノートや、書きやすいようにガイドの点線がはいったノートを使う。 黒板の書き方を工夫して、ノートに写す部分を分かりやすく、簡潔にする。 黒板の文字と手元のノートの間で視線を往復させて見比べることが難しい子どもの場合は、ノートに写す部分は、プリントにして配布し、手元を見ながら写すことができるようにする。 文字を薄く書いておき、その上からなぞるように書いてもらいましょう。 手本を示す際に、子どもが間違えやすい部分に下線を引くなどして、注目しやすくしてあげましょう。 子どもに単語を書かせる場合、はじめは短い単語で練習させましょう。
子どもに促したい行動	体が前のめりになっていないか、机に対して平行か、鉛筆は正しく持てているかを注意する。 文を書くとき、声に出しながら書くようにする。

5. 計算する

-こんな子どもがあてはまります

簡単な計算や暗算ができない。 筆算のときに桁がずれる。 繰り上がり、繰り下がりのある計算ができない。 文章題を解くことが難しい

-考えられる原因

数量の概念を理解していない（数を聞いたり数字を見たりしても数量のイメージがわかない)。 計算のルールがわからない。 頭の中だけで数を操作することが難しい。 文章題に書かれている内容を理解し、数式に置き換えることが難しい。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	具体物、ブロックなどを利用して計算を解くようにする。 筆算のときにケタを間違わないように線を引いておく。 時間がかかってもいいように、プリントの問題数を少なくする。 文章題の内容を図で表す。
子どもに促したい行動	ブロック・数え棒など数の量が分かるような道具を活用して計算を解く。 暗算に頼らず、紙に書きながら計算する。 文章題の中で、計算に大事なところに下線を引く。

6. 時間・空間・因果関係を理解する

-こんな子どもがあてはまります

図形を描くことが難しい。 地図を読み取ることが難しい。 道に迷いやすい。 自分の持ち物をうまく片付けることが難しい。 時計を読んだり、時間を表す言葉（1 時 40 分など）を正しく理解したりすることができない。 出来事の理由や原因を理解することができない。

-考えられる原因

目で見たものを認知する力が弱い。 空間的な位置関係の把握が難しい。 形を目で見て正確に捉えたり、手を使って形を構成したりすることが難しい。 時間の概念（分、時間、日など）が育っていない。 見聞きした情報を総合的に判断することが難しい。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	簡単な形から練習を始め、少しずつ複雑な形を描くことに慣れていくように支援する。 形を言葉でも説明してあげる。 精密な図が描けていなくても、大まかな図が描けていれば正解にしてあげる。 持ち物を分けて入れる箱を用意してあげる。 地図の中の注目すべきところに印をつけてあげる。 授業の開始時間や終了時間を時計の模型で示す。 時計の長針、短針の位置に気づかせて時間を示したり、カレンダーを見せて日にちや曜日を説明したりする。 出来事の因果関係をことばで説明して聞かせる。
子どもに促したい行動	2 つの形の違いをことばで言う。 簡単な形を手本の真似をして書く。 時計の針の位置をことばで言う（短い針が 7 のところにあります、など）。 「なぜこうなったのか」「このあとどうなるのか」を考えさせる。

7. 身体を動かす

-こんな子どもがあてはまります

マット運動のときにバランスが崩れる。 いすに座っていてもすぐに姿勢が崩れる。 ボールを上手に投げられなかったり、受け取れなかったりする。 ハサミを使う、ボタンの留めはずしなどが上手にできない。 他の人が読めない文字を書く。

-考えられる原因

身体の筋肉が不必要に緊張していたり、極端にゆるんでいたりする。 身体各部の協調した動きが難しい。 目の動きと手の動きの協調が難しい。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	ゆれたり、バランスをとったりするような活動を取り入れる。 自分の身体を意識させる（腕を上に伸ばすなど）活動を取り入れる。 いすに座りやすいように、高さを調節したり、足の下に台を置いてあげる。 ハサミを使う、ボタンをとめる、ひもを結ぶなど、手先を使う機会を豊富に与える。
子どもに促したい行動	身体を動かすときは、スピードよりも正確さを意識するよう促す（ゆっくりでいいから丁寧に行うように促す）。 座るときは、いすに深く腰掛け、背中を背もたれにしっかりつけて座らせる。 手元をよく見てハサミやボタンを操作するよう促す。

8. 対人関係

-こんな子どもがあてはまります

集団の遊びでルールを守って遊ぶことができない。 友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる。 自分勝手な行動を取る。 友達と仲良くしたいけれども、上手に関係を築けない。

-考えられる原因

ルールを理解することが難しい。 友だちとのかかわり方が分からない。 相手の意図を理解できない、表情から感情を読み取ることができない。 ことばの理解力や表現力が弱い。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	簡単なルールの遊びから始めるよう、教員が介入する。 ルールを言葉で説明してあげる。 その子どもが得意な遊びからはじめる。 相手がどんな顔をしたらいやなのかなど、気持ちを読み取るような課題に取り組む。
子どもに促したい行動	困ったときには教員のところに来るように伝えておく。 何か問題が起こったときには、後で一緒にそのことを振り返り、何が原因だったのか、どうすればよかったのかなどについて一緒に考える。

9. 行動（注意散漫）

-こんな子どもがあてはまります

ぼんやりとしていて、人の話を聞いていないことが多い。 課題や遊びに注意を集中し続けることが難しい。 指示に従って最後までやり遂げられない。 忘れ物やものをなくすことが多い。 身の回りの整理整頓ができない。

-考えられる原因

見たり聞いたりすべき対象に注意を向けることが難しい。 周囲からの刺激によって別の物に注意がそれやすい。 注意を向けられる時間が短い。 耳で聞いて理解する力が弱い。 2 つのことに同時に注意を向け続けることが難しい。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	教員が話すときは、「今から先生が話します」などの声かけをする。 長い説明はいくつかの短い文に分けて、子どもの理解を確認しながら伝える。 作業手順を短い文やイラスト、身振りで示し、流れが分かるようにする。 活動は短いいくつかの時間に区切り、区切りことに子どもの気持ちを整える。 窓側や廊下側などは刺激が多いので、座らせないようにする。
子どもに促したい行動	教員の話を聞くときには、椅子の背もたれに背中をつけ、身体を教員の方に向けて聞く。 机の上には必要なものだけを出し、余計なものは机やカバンの中にしまっておく。 物を使ったら、元の場所に戻すようにする。 教室を移動するときは、落し物や忘れ物がないかどうか机の周りを確かめる。

10. 行動（多動・衝動性）

-こんな子どもがあてはまります

じっと着席していることができない。 順番を待つことができない。 教室の机の上や棚の上などに上ったり、走り回ったりする。 話し始めるととまらない。 授業中に自分勝手に発言をする。 他の人がしていることをさえぎる、邪魔をする。 相手の質問が終わらないうちに答えてしまう。

-考えられる原因

自分の注意や行動をコントロールする脳の働きに何らかの機能障害がある。 周囲の状況を理解する力が弱い。 「わがまま」や「自分勝手」とは違う。

-指導の際の工夫

教員が行う工夫	立っている場所を枠で囲むなど、目で見て分かりやすいようにする。 待たなければならないときに、待つ時間が分かるようにしたり、いすを用意したりする。 窓際の席は気が散りやすいので避ける。 待てたときや我慢できたときはほめる。 課題を具体的な言葉で、簡潔に伝える。 子どもが課題に取り組む時間を短く区切って、区切りごとに気持ちを切りかえさせる。 課題に集中すべき時間が分かるように、針が動いたり終了時間を音で知らせるタイマーなどを活用する。 発言のルールをあらかじめ決めておく（手を上げて指名された人だけが発言できる、など）。 してはいけないことを確認する。もししてしまったら、どうしたらよかったのかを話し合い、代替行動を説明する。
子どもに促したい行動	課題が一区切りしたら、休憩を入れるようにする。 落ち着きがなくなってきたら、静かな場所で少し休憩するようにする。 短時間で終わる作業を積み重ね、少しずつ長い時間待てるようにする。

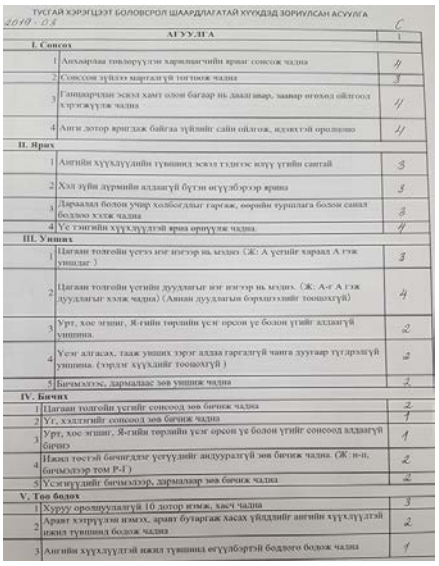
Ⅳ. パイロット校における子どものニーズに応じた指導法支援の取り組みの事例

該当するカテゴリー:

1. 聞く

1. 学年	5 年生
2. 実施期間	2018 年 10 月～2019 年 4 月
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	• 文字は分かるが、似た文字を間違えて読む。例えば、С-Ш, Ц-З • 間違えて書く。 • 一部の母音字の発音を正しく読むことができない。例えば、Ѳ 文字を二重母音の発音で読む。 • 二重母音をきれいに発音できない。 • 文字を間違えて書く。 • ノートの枠からはみだして書くことが多い。 • 読むことができない。
4. 考えられる理由	• 言語器官の障害 • 発音や文字の読み方を間違える。 • 文字の書き順やつなげる順序を間違える。 • 2 つの文字を繋げて読むことができない。 • 読み書きができないため、モンゴル語の授業における意欲が低い。
5. 合理的配慮、具体的な支援内容	<u>学習内容、指導法の工夫・配慮</u> • 質問シートを記入し、診断する。 • 適切なツールを選ぶ。 • 重ねて、真似して書くツールを選ぶ 。 • 音節を覚えさせるために音節表を活用する。 • 音節を書かせる。 • 発音を直すために発音できない文字が入った 1 つの音節の単語を言わせる。 • 1 つの音節からなる単語を覚えさせる。 • 短い文章の書き写しをさせる。 • 対象児の趣味やできることをもとに発達を促すように注意して取り組む。
	<u>施設や環境面における工夫、配慮</u> 特になし
	<u>周囲（クラスメート、他の教員、保護者など）に対する取り組み</u> • 教員の机の前に席を置き、同じレベルの児童の近くの席にした。 • 教員と会話ができる機会を増やしている。 • クラスメートが授業でわからないことなどを支援する。 • 保護者と常に連絡を取り合い、子どもの発達を評価し、保護者に対しても支援や助言などをしている。

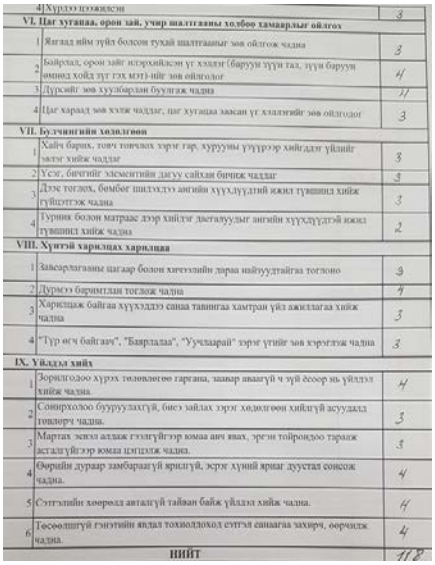
6. 実施した活動の成果、改善点	対象児を正しくアセスメントすることで、適した指導方法、ツールを選びやすくなった。



ТУСГАЙ ХЭРЭГЦЭЭТ БОЛОВСРОЛ ШААРДЛАГАТАЙ ХҮҮХДЭД ЗОРИУЛСАН АСУУЛГА

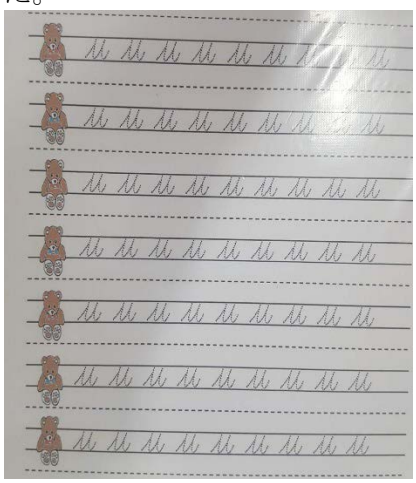
2010 : 03

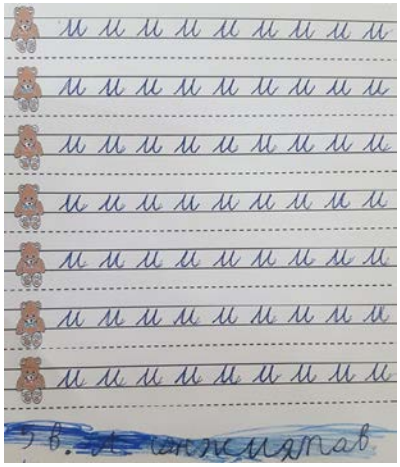
	АСУУЛГА	С
I. Сонсох		
1	Анхаарлаа товлоруулэн харилцагчийн яриг сонсож чадна	4
2	Сонссон зүйлээ марталгүй тогтоож чадна	3
3	Ганцаарчлан эсвэл хамт олон багаар нь даалгавар, заавар өгөхөд ойлгоод хэрэгжүүлж чадна	4
4	Анги дотор яриглаж байгаа зүйлийг сайн ойлгож, идэвхтэй оролцоно	4
II. Ярих		
1	Ангийн хүүхдүүдийн түвшинд эсвэл тэдгээс илүү үгийн сангтай	3
2	Хэл зүйн алдаагүй бүтэн өгүүлбэрээр ярина	3
3	Дараалал болон учир холбогдлыг гаргож, өөрийн туршлага болон санал бодлоо хэлж чадна	3
4	Үс тэнгийн хүүхдүүдтэй ярих орнуулж чадна	4
III. Унших		
1	Цагаан толгойн үсгээ нэг нэгээр нь мэдэх (Ж: А үсгийг харвал А гэж уншдаг)	3
2	Цагаан толгойн үсгийн дуудлагыг нэг нэгээр нь мэдэх. (Ж: А-г А гэж дуудлагыг хэлж чадна) (Аниан дуудлагын бэрхшээлийг тооцохгүй)	4
3	Урт, хос эгшиг, Я-гийн торлийн үсэг өрсөн үе болон үгийг алдагүй уншина.	2
4	Үсэг алгасах, таяж унших зэрэг алдаа гаргалгүй чанга дуутаар тууштай уншина. (зөрдөг хүүхдийг тооцохгүй)	2
5	Бичмэлээс, дармалаас зөв уншиж чадна	2
IV. Бичих		
1	Цагаан толгойн үсгийг сонсоод зөв бичиж чадна	2
2	Үг, хэллэгийг сонсоод зөв бичиж чадна	1
3	Урт, хос эгшиг, Я-гийн торлийн үсэг өрсөн үе болон үгийг сонсоод алдаагүй бичнэ	1
4	Нэмэл тестэй бичигдлэг үгүүдийг анхааралгүй зөв бичиж чадна. (Ж :н-н, бичмэлээр том Р-г)	2
5	Үсэгнүүдийг бичмэлээр, дармалаар зөв бичиж чадна	2
V. Тоо бодох		
1	Хуруу ороолуулалгүй 10 дотор нэмж, хасч чадна	3
2	Аравт хэтрүүлэн нэмэх, аравт бутаргаж хасах үйлдлийг ангийн хүүхдүүдтэй ижил түвшинд бодож чадна	2
3	Ангийн хүүхдүүдтэй ижил түвшинд өгүүлбэртэй бодлого бодож чадна	4



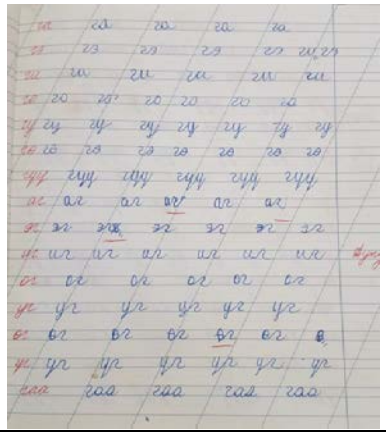
4	Хуруун дээжлэлт	3
VI. Цаг хугацаа, орон зай, учир шалтгааны холбоо хамаарлыг ойлгох		
1	Яагаад ийм зүйл болсон тухай шалтгааныг зөв ойлгож чадна	3
2	Байрлал, орон зайг илэрхийлсэн үг хэллэг (баруун зүүн тал, зүүн баруун өмнөд хойд зүг гэх мэт)-ийг зөв ойлгодог	4
3	Дүрсийг зөв хуулбарлан бичлэг чадна	4
4	Цаг хараад зөв хэлж чаддаг, цаг хугацаа хаасан үг хэллэгийг зөв ойлгодог	3
VII. Бүлэгчлэгийн хөдөлгөөн		
1	Хайч барих, товч товчлох хэрэг гар, хөрөөны үүдэрээр хийгдэг үйлийг амжуулж хийж чаддаг	3
2	Үсэг, бичгийн элементийн дагуу сайхан бичиж чаддаг	3
3	Дээс тоглох, бөмбөг шидэхдээ ангийн хүүхдүүдтэй ижил түвшинд хийж гүйцэтгэж чадна	3
4	Гурвин болон матраас дээр хийдэг дасгалуудыг ангийн хүүхдүүдтэй ижил түвшинд хийж чадна	2
VIII. Хүнтэй харилцах харилцаа		
1	Завсаргагааны цагаар болон хичээлийн дараа найзуудтайгаа тоглоно	3
2	Дүрмээ барилцлан тоглож чадна	4
3	Харилцаж байгаа хүүхэдтэй сайна танилцах хамтран үйл ажиллагаа хийж чадна	3
4	"Гүр өсч байгаач", "Баярлаа", "Учцаарай" зэрэг үгийг зөв хэрэглэж чадна	3
IX. Үйлдэл хийх		
1	Зориулгоо хүрэх төлөвлөгөө гаргана, заавар авалгүй ч үүнд ёсоор нь үйлдэл хийж чадна.	4
2	Сонирхолоо бүрэлдэхгүй, биеэ зайлах зэрэг хөдлөгөөн хийлгүй асуудалд товлорч чадна.	3
3	Мартах эсвэл алдах гэхдүйгээр юмаа анч явах, эрэгч тойроодоо тараах аслалгүйгээр юмаа цэгцлэж чадна.	3
4	Өөрийн дураар замбараагүй яригдэг, жирэг хүний яриг дуустал сонсож чадна.	4
5	Сэтгэлийн хөдөлгөөн авалгүй тайван байж үйлдэл хийж чадна.	4
6	Тасфлшгүй гэнэтийн явдал тохиолдохол сэтгэл санаагаа захирч, өөрчлөж чадна.	4
	НИЙТ	118

文字の接続を間違えるため、正しく書けるように書き方を真似させて書かせた。



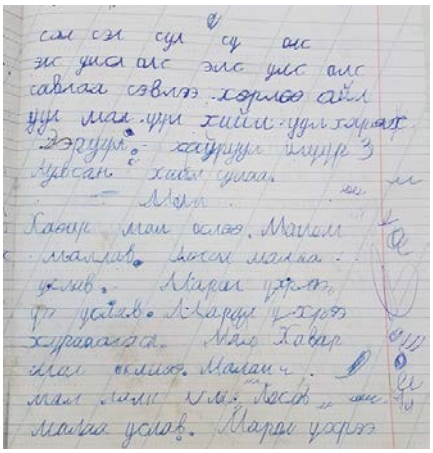


正しい書き順で書くようになった後、音節表を用いて音節の書き写しをさせ、覚えさせ、間違いをその都度直すようにした。

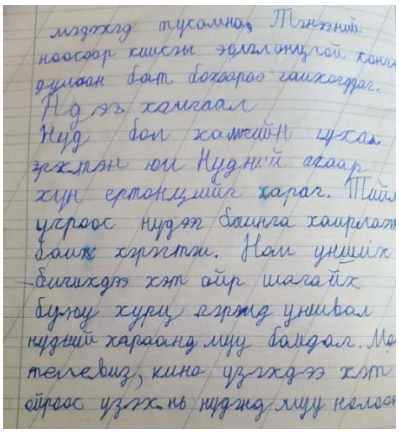


文字の接続を正しく書けるようにする、文字と文字の間にスペースを取ることや 1 つの音節からなる単語の読み書きができるようにする、発音の間違いを直すために当該文字や発音を含む 1 つの音節からなる単語の書き写しをさせる、絵カードを用いながら暗記できるようにする。このような方法で指導することによって 1 つの音節からなる単語、短い文章を正しく書き写せるようになった。さらに書くスペースをはみだすことなく、文字と文字の間のスペースをも取るようになっている。また、1-2 つの音節からなる単語が入った短い文章を読めるようになってきている。

書き写しの課題の達成状況



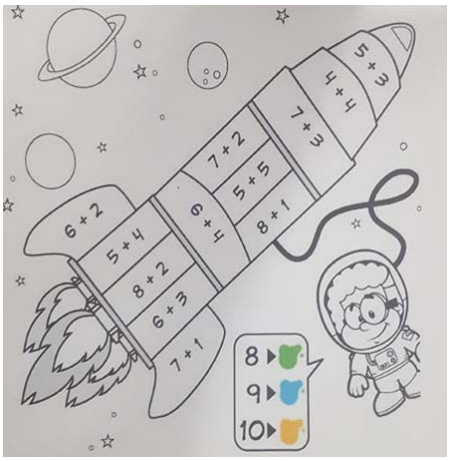
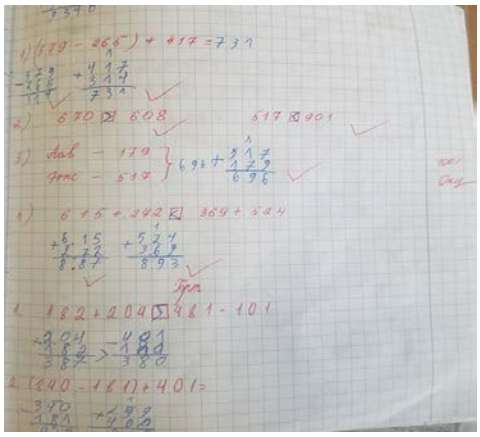
前



後

1 つの音節からなる単語を覚えさせる絵カードツールの例

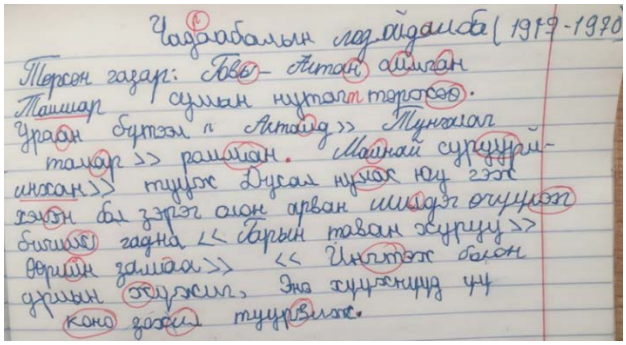
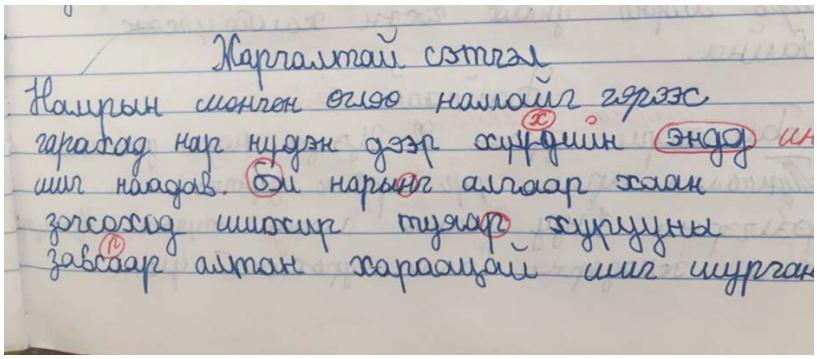
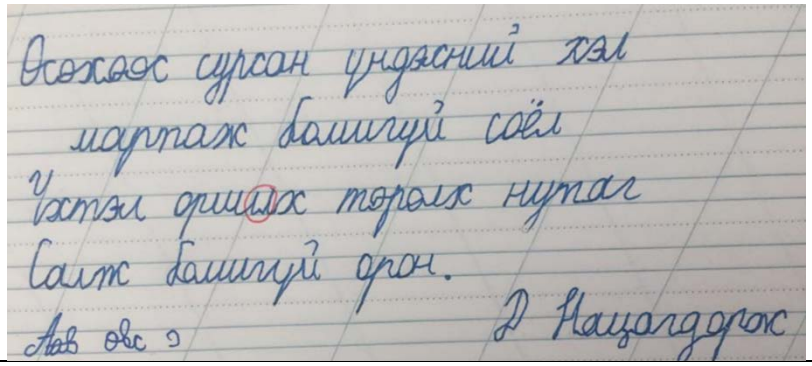
	短い文章を読んでいる様子 短い文章：1 アマル（人の名前） 「アマル、座って。アマル、本を読んで。アマルさんに聞いて下さい。アマルは牛乳を飲んだ。」 短い文章：2 きのこ 「森の中にきのこが生えた。きのこで料理を作る。きのこは美味しい。」 対象児が授業に興味を持って積極的に取り組めるように、対象児ができることや興味のある授業や教材を用いて指導している。さらに、教員と会話ができる機会を増やすために、教員の机の前に対象児の席を配置している。 対象児は算数、人間と自然といった授業にとても興味をもっており、積極的に参加するようになった。

	工夫した教材例：  
7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想	• 対象児の積極性が増した。 • 今まで対象児はモンゴル語の授業に興味がなく、教科書やノートを家に置いてきていた。しかし、対象児に合った指導方法、ツールを用いて個別に指導した結果、文字を正しくつなげて書けるようになり、短い文章を正しく書き写せるようになった。また、1~2 つの音節からなる単語を読めるようになってきている。 • クラスメートが手伝うようになった。 • クラスメート、保護者の間での差別意識がなくなった。 • クラスメートと常にコミュニケーションを取っているので自己表現力が向上した。 • 今後、3 つの音節からなる単語の読み、1~2 つの音節からなる単語の読み書きができるようにしたい。

該当するカテゴリー:

2. 話す

1. 学年	6 年生
2. 実施期間	2018 年 11 月～2019 年 4 月
3. 子ども特徴、学習において見られる問題点	• 板書を書き写す時に間違える。 • 暗記して書く時に間違える。 • 書き写しを間違える。 • 字を書くことが苦手。 • 作文を書く時に単語を間違える。
4. 考えられる理由	• 視力が弱い。 • 集中力がない。 • 聞いたことを書くことができない。
5. 合理的配慮、具体的な支援内容	• 席はクラスの中で一番前の列に配置している。 • 理解し、助けられる児童と同じ席に座らせる。 • 保護者と協力する。 • この期間中に言葉を覚えさせ、書き写しの宿題を毎日少しずつ出して行った。文字と文字を正しく繋いで書くことを教え、母音文字の特性について教えた。 • 単語を鉛筆で書いてあげて、その上をなぞらせた。また、対象児のノートに文字を書いてあげて、対象児が模倣して書くようにした。 • ノートに書き写す部分を紙に大文字で印刷し、対象児に渡し、書き写す前に 1 回対象児に読ませていた。 • 1 つ、2 つの音節からなる言葉を大きな声で読み、暗記して書かせている。書かせる前に各単語を 1 回読んであげている。 • 教科書を提供した。 • 正しい姿勢で座らせて書かせている。
6. 実施した活動の成果、改善点	**成果：** • 1～2 つの音節からなる単語を暗記して書く際の間違いが少なくなった。 • 板書を書き写す時の間違いが少なくなった。 • 教科書を書き写す時の間違いが少なくなった。 • 授業中に何もしなかったが、積極的に参加するようになった。 • 書く時の姿勢が良くなった。 **今後の改善点：** • 文字の書き方を改善する。 • 正しい書き方を初めから説明し、理解させる。 • 短い文章を暗記して書けるようにする。 • 書く時のスピードを上げる。 • 作文を自分で書けるようにする。 • 3 つもしくは 3 つ以上の音節からなる言葉を間違えることなく、書けるようにする。

	前  後  暗記した文章の書き 
7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想	モンゴル語で間違えずに書けるようにするには時間がかかった。しかし、プロジェクトによる講義等で聞いたことや分かったことをもとに指導した結果、対象児が以前よりもできるようになり、そのことをうれしく思っている。対象児は教科書を書き写す時の間違いが少なくなり、授業に積極的に参加し、板書の書き写しができるようになった。対象児の授業に対する意欲や関心が高まってきた。

該当するカテゴリー：

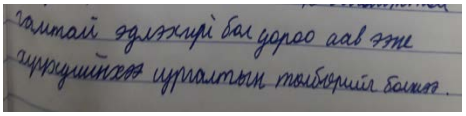
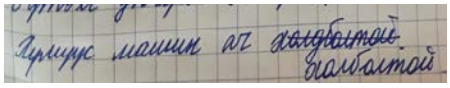
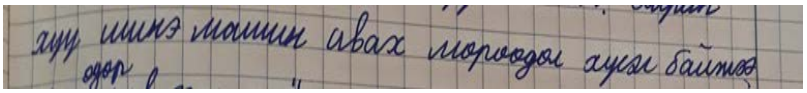
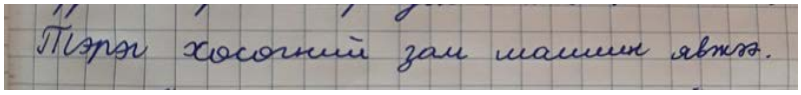
2. 話す

1. 学年	7 年生
2. 実施期間	2018 年～2019 年の 2、3 学期
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	口数が多い。いつも手を挙げて話そうとする。授業に全く関係のない他の話をする。
4. 考えられる理由	教員の注意を常に引こうとする。（おそらく、対象児は孤独を感じているかもしれない。自分が言おうとしていた重要なことを忘れる。）
5. 合理的配慮、具体的な支援内容	学習内容、指導法の工夫・配慮： • 対象児の席を教員に近い、一番前の列に配置した。 • 話そうとしていることを順番に話すように指導した。個別の面談や会話の時間を 2 週間に 1 回とるようにした。 • 対象児の特性に応じた個別教育計画を作成して取り組んだ。
	施設や環境面における工夫、配慮 特になし。
	子どもを取り囲む環境における取り組み： • 仲の良い友達を隣の席に配置した。 • 順番に話すように指導し、担任は助言を行った。 • 教科の教員たちも同様に順番に話すように指導し、助言しながら取り組んだ。
	保護者との連携： 保護者と話し合い、対象児と常に会話するように助言した。
6. 実施した活動の成果、改善点	対象となっているこの対象児に個別に助言をしながら、取り組んだ結果、対象児は自分の言いたいことを簡潔に表現できるようになった。
7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想	担任をはじめ、教科の教員たちも対象児に簡潔に話しかけるようにしたり、人に話してよいこと・いけないことを考えるように助言したりしてきた。その結果、他人に話していいこと、話さなくてもよいことの区別ができるようになった。

該当するカテゴリー：

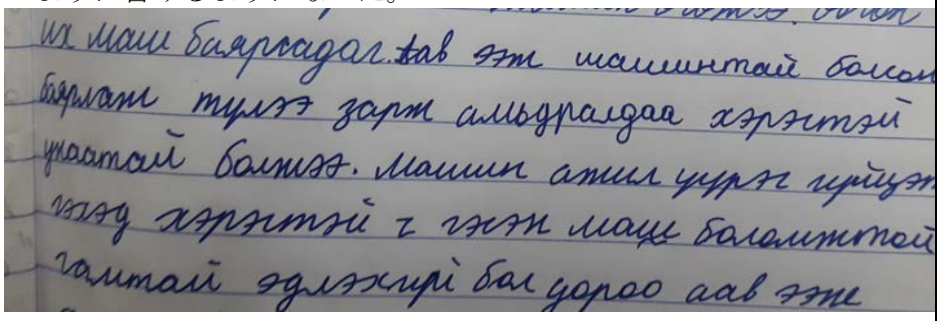
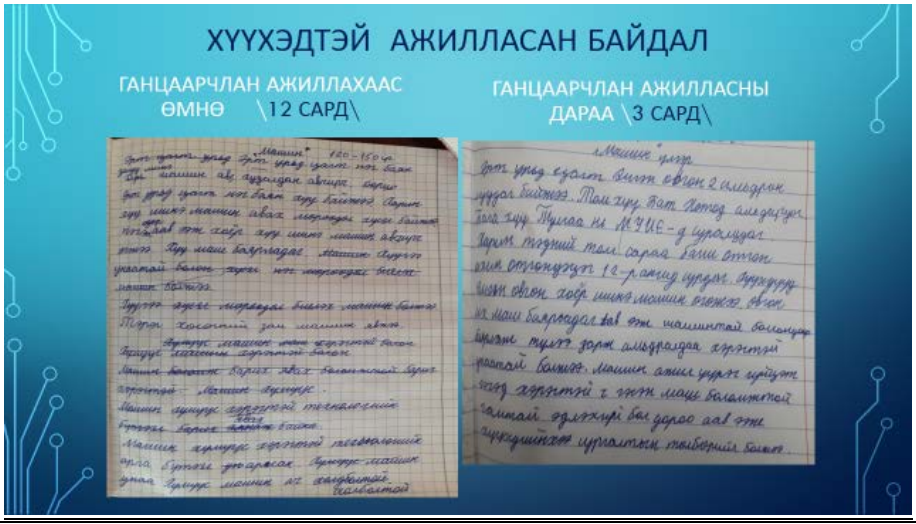
2. 話す

4. 書く

1. 学年	9 年生
2. 実施期間	2、3 学期
3. 子どもの特徴、学習において見られる課題	**話す、書くことに課題がある。** 1. 文や長い文章を読んで理解できない。 • 文を読んで内容を聞くと答えない。 • 文を読んで内容を自分の言葉で話せない。 • 文を読んで感じたことや感想を表現して書けない。 • 作文を書く時に単語を正しく繋げて書けない。 2. 発音が似ていて、意味が異なる単語を混合して書く。 例えば： **「見つけた（Олжээ）-なった（болжээ）」**  3. 必ずあるべき単語を抜かして書く。  **「人々の生活には車はとても重要です。」** 4. 作文を書く時に文章の構成を間違える。あるいは単語が欠けている。そのため、意味が分からず、文章の内容が欠けてしまう。  
4. 考えられる理由	順番や理由、自分の経験や意見を言えない。まとめて書くことや言うことが苦手。知っている単語数が少ない。 保護者及び子ども自身が課題を認識していない。母親はうちの子どもはとても頑張っているし、宿題も良くやっているのになぜ成績が良くないのかと思っている。
5. 合理的配慮と具体的な支援内容	<u>学習内容、指導法の工夫・配慮</u> • 教材を工夫する。 • 教室の中で一番前に列に席を配置し、成績が一番良い子どもの隣にする。 • 問題集のやり方、説明を対象児だけに再度言う。 • 常に質問し、書かせる。 • 誰？どんな？何を？どうして？などの質問で誘導し、文章を書かせる。 誰？ / どんな？ / 何を？ / どうした？ 子どもたち / 新しい / 歌を / 学んだ

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>保護者との連携：

母親に対して子どもを客観的に評価し、子どもの学習能力を認識することを促すために助言する。

単語帳を作る。
A. 2 学期に毎日新しい単語 1 つ
B. 3 学期に毎日新しい単語 2 つ</td></tr>
<tr><td>その他：
毎日、放課後の 20 分間を活用し、担任と一緒に短い文章を読む。読んだ後、内容を理解したかを確認する。</td></tr>
<tr><td>6. 実施した活動の成果、改善点</td><td>文章を書き写す時や作文を書く時に単語を抜かして書いていたが、それが少なくなった。例えば、「車」と題した作文を書いたときは以下のように書けるようになった。
 
  </td></tr>
</table>

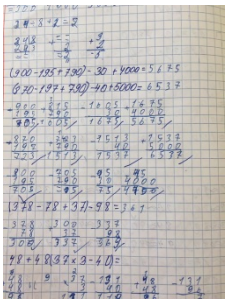
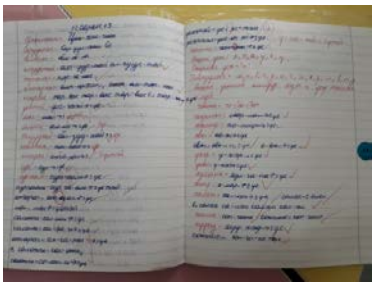
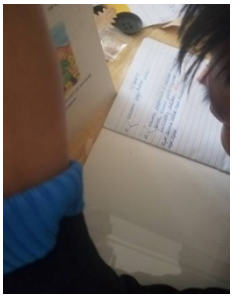
7. 成果を振り返り評価した担任の教員の感想		対象児の書く力を高めるために取り組んだ。9 年生の国語の国家試験の例文「飛行機」という文章を読み、理解し、そのとおりに「車」という作文を書く課題に取り組んだ。この取り組みによって上述した作文を 4〜5 回も書かせ、修正した。 また、「保健」、モンゴル縦文字、英語、数学、歴史、社会科の授業を教えている教科の教員たちと協力して取り組んだ。対象児の作文を書く能力が向上している。

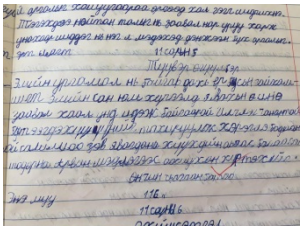
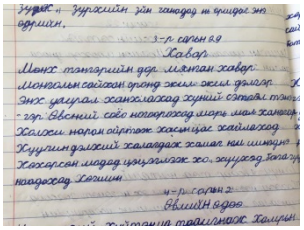
該当するカテゴリー：

2.話す

4.書く

1. 学年	5 年生
2. 実施期間	2018 年 12 月～2019 年 3 月
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	• 授業では落ち着いて座れない。 • 舌の奥から言う“H”と舌の先でいう“H”の発音の区別ができない。 • 人と話す時に慌てる。言葉をはっきり言えない。言っている言葉が分かりにくい。 • 同年代の子どもたちとコミュニケーションをとることが難しい。 • 黒板に書いた言葉を見てノートに書き写すことができない。 • 暗記して書く時に単語を間違える。 • 足し算、引き算ができない。
4. 考えられる理由	• 集中力が低い。 • 物事を理解する、区別する能力が低い。 • 自信がない。 • 舌の奥から言う“H”と舌の先でいう“H”の発音の区別ができないので言葉が分かりにくく聞こえる。 • 言おうとしていることをまとめて言う能力が低い。 • 書き写す部分を理解できない。 • 聞いたことを書くことができない。
5. 合理的配慮と具体的な支援内容	<u>学習内容、指導法における工夫、配慮</u> • 週 6 時間の授業を月・水・金曜日に個別に教えている。 • 舌の奥から言う“H”字と舌の先でいう“H”字が入った 1 つ、2 つの音節からなる単語を復唱させ、読み書きをさせている。（хана（壁）、унь（ウォ二）、тана（タナ）、тун（とても）、сан（基金）、ганган（おしゃれ）、лувсан（ロゥフサン/人の名前）、хонь（羊）、байшин（家）など） • 舌の奥から言う“H”と舌の先でいう“H”が入った単語を使って早口言葉、短文を書き、話す。 • 対象児の好きな絵カード、サイコロ、ボールなどを使って一緒に遊びながら短文で話す。 • 対象児が単語を正しく言う時や書く時に良くできるようになっていることを褒める。 • 教員は、板書をノートに書き写す部分をハイライトで示すか、あるいは大きな文字で紙に印刷する。 • 間違えた単語を真似て書かせ、対象児に大きな声で読ませ、書かせる。 • 数学の問題を解く時に覚えた数字を書かせる。
	<u>施設・環境面における工夫、配慮</u> 別の教室を整備し、教材を整備した。（小さい机、椅子、本棚、絵カード、物語の本など）。学校の 4 ヵ所にスロープを作った。
	<u>周囲（クラスメート、他の教員、保護者など）に対する取り組み</u>

	• クラスメートに勉強を一緒にするよう助言している。 • 毎週金曜日に対象児の保護者に会い、対象児が学んだ単語や文章を渡して家で復習させるように助言している。 • 体育の教員は運動が良くできるようになったと対象児を褒めるようになった。
	<u>その他</u> • 保護者に対して子どものために毎日 5 分間の時間を作り、子どもが今日一日学校で学んだことについて聞き、会話するように助言している。
6. 実施した活動の成果、改善点	• 対象児は自分が良くできるようになったと褒められるととても喜んでいる。 • 毎日、「先生勉強しても良いですか？」と聞くようになった。 • 1 つの音節からなる舌の奥から言う“H”と舌の先でいう“H”を大きな声で言えるようになり、区別ができるようになった。 • 足し算、引き算ができるようになった。  • 授業中に少し休憩させ、サイコロなどで遊びながら会話をすることで会話を積極的にするようになった。 • 早口言葉をとまらずに言えるようになった。（Намрын цас хайрна（秋の雪は冷たい）、Хаврын цас хална（春の雪は暑い）、Шаврыг усаар зуурна（粘土を水で）） • 線が入ったノートに板書をきれいに分かりやすく写せるようになった • 暗記して書く時は、書く言葉を大きな声で言いながら書くことで間違いが少なくなった。   • 対象児は「先生は私をクラスメイートの成績が一番良い子どもと同じように褒めているので、私はクラスのリーダーにもなることができるかもしれない」と言うようになった。 • 対象児は「クラスメートは私と話すようになった。私は前に友だちが 1 人しかいなかったけど、今は友だちがたくさんできま

	した」と言うようになった。 • 綺麗に書けるようになった。  
7. 成果を振り返り評価した担任の教員の感想	今回の取り組みをする前は、対象児は学校に来て授業が終わるまで何も話すことなく、黙って帰っていた。教員が質問すれば答える子だった。保護者は学校に来ることがなく、教員に全く連絡しなかった。年に 1・2 回、保護者会議に来るくらいで、学校生活のことをあまり気にしていなかった。 このプロジェクトが始まり、担任の方から、プロジェクト活動に参加したいと対象児の保護者や対象児本人に要望した。指導の工夫をすることで大きな進歩が見られた。例えば： - 自分が他の子どもたちと同じだということを認識するようになり、学校に来るときは家が近い友だちと一緒に来るようになった。 - 授業にクラスメートと話し合いながら取り組むようになり、休憩の時は友だちと一緒に遊ぶようになった。 - 対象児を褒めるとより頑張るようになった。 - 保護者は毎週時間がある時は学校に来るか、あるいは電話で教員と連絡を取り合うようになった。 - 対象児の学習状況は非常に良くなっており、間違えることなくきれいに書けるようになった。 - 自分の発音などを気にせずに話せるようになった等の良い変化があった。

該当するカテゴリー：

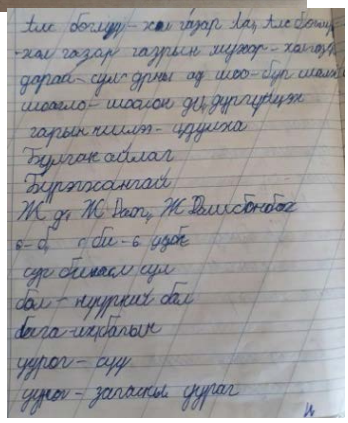
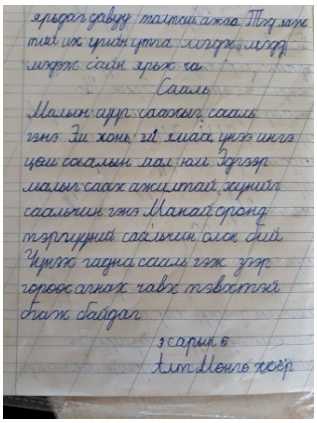
3. 読む

4. 書く

1. 学年	3 年生
2. 実施期間	2018 年 10 月～2019 年 3 月
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	• モンゴル語アルファベットの文字を全部知っており、発音も正しく言うが、単語は書けない。 • 単語の中にある長母音を短母音の発音で読む。 • 文字を間違えて読む。 • 複数の文章を聞くと理解できない。一部を忘れることがある。 • きちんとした文章で話せない。単語を上手につなげて話せない。知っている単語が少ない。 • 自信がない。 • 活字体から筆記体に書くことができるが、途中で文字を落として書き間違いをする。 • 文字と文字の接続を間違えるため、とてもゆっくり書く。書いたものが読みにくい。 • 暗記して書くことができない。 • 家庭環境があまりよくなく、生活習慣に影響している。 • 自立して学習する方法を身に付けていないため、教員のサポートや要求を受けながら勉強をしている。
4. 考えられる理由	• 音節で読めないため、2 つの文字を合わせてどのように読むかを分からない。音節を覚えていないため、単語を音節で読めない。 • 単語の中の長母音字を分かっているが、読む時は短母音字の発音で読んでしまう。 • 集中力がない。書いたものをきちんと見ないので間違えて書く。 • 他者とのコミュニケーションはあまりなく、本を読まないので知っている単語数が少ない。話すときの語彙が少ない。 • 集中力がなく、教員の話をあまり聞いていないので理解できない。 • 知っている単語数が少ないため、自己表現や意見を言うことが苦手。 • 読めないため、書き写しの時は文字を一文字ずつ見ながら書いている。そのため、抜けや間違いが多い。 • 音節で読めないため、2 つの文字を合わせたらどのように読むかを分からず、はっきり聞こえた文字だけを書く。 • 生活習慣が身についておらず、食生活も偏っているため、授業中に頭痛や気分が悪い、腹痛などを訴える時がある。これは学習の遅れに影響している原因でもある。 • 保護者は授業を欠席させることがある。（保護者は対象児に妹弟の面倒を見させたり、家事の手伝いをさせたりすることが多い）

5. 合理的配慮と具体的な支援内容	<u>学習内容、指導法における工夫、配慮</u> • 遊ぶことが好きなことに基づいて子音字と母音字を合わせた単語を作って読ませている。 • 音節を覚えさせている。 • 音節ごとに区分し、色でマークした単語を読ませている。 • 自転車に乗ることが好きなので自転車に関する様々な文章を読ませている。そして内容を確認している。 • 長母音字をマークした音節を読ませている。 • 大文字で書いた短文を読ませている。 • 簡単な文章を読ませている。 • 暗記させている。 • 教員と一緒にクラスメートが書いた暗記試験を修正している。クラスメートが書いたノートを修正することで単語を覚え、読む力が向上した。はじめは遅かったが、今は早く直せるようになった。また、対象児は自分を教員みたいだと喜んでおり、それが対象児にとって励みになっている。 • マンガや短い物語を読ませている。 • 指の微細運動を発達させるために積木、パズル、踝などを通じて指導している。 •文章を重ねて書くようにしている。書く時に読み上げている。 •筆記体で書いて文章を綺麗に書き写すようになった。 •4~5 文字で構成される文章を読み、覚えて来るように宿題を出し、次の日に暗記した文章を書かせるようにしていた。この方法はとても効果的だった。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>

• 対象児に 1 年生向けの読む課題を読ませたところ、読むスピードがあがった。読むことが好きになった。
• 対象児の読み書きの能力が良くなるたびにほめるようにしている。

2018 年 11 月 5 日
この時は読みづらい字で、間違いが多かった。

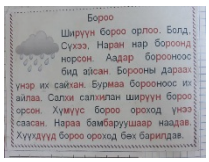
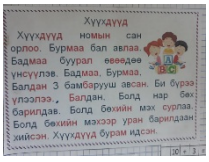
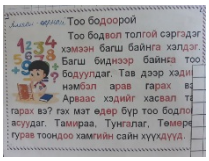
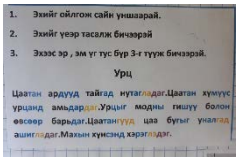
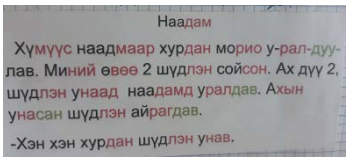
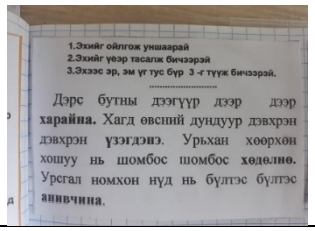
2019 年 3 月 6 日
書き写しを間違えなくなり、書き方も綺麗になった。
</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>
<u>周囲（クラスメート、他の教員、保護者など）に対する取り組み</u>
• 自転車が好きなので自転車が入った文章を読ませている。意味について話をさせる。
• 対象児の母親に会い、対象児の発達について話し、今後どのような可能性があるかについて話し合った。
• 保護者に対し、対象児とどのようにコミュニケーションを取って行くべきか助言している。
• 保護者に対し、連絡帳にその日の宿題やどのようにするかについて記入して渡している。
• 保護者に対象児の好きなおもちゃや趣味などに基づいて勉強させるよう助言している。
• 教室の中で対象児の席を定期的に変更し、優秀な子どもと一緒に教員の近いところに席を配置している。
</td>
</tr>
<tr>
<td>6. 実施した活動の成果、改善点</td>
<td>
• 対象児の短期目標：音節の読み書き、暗記した文章や単語を間違えずに書く、綺麗に書き写しができるようになる、といった短期目標が達成された。
• 対象児の長期目標：読むこと、暗記した文章や単語を書く、自立的に学習に取り組むようになる、読んだものの内容をきちんとした文章で言えるようになるといった目標がある。従って対
</td>
</tr>
</table>

	象児は現在 1 分間に 10~15 個の単語を読めるようになった。読んだものについて文章で言えるようになった。しかし、暗記して書くことはまだ十分ではない。 • 対象児自身が読むことに自信をもつようになった。 • 授業を欠席しない。遅れても学校に来るようになった。 • 教員への手伝いやサポートを積極的にするようになった。
7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想	• 対象児についてもっと調べ、実態をより把握し、監察し、学習における遅れの原因を突き止める必要がある。 • 対象児の保護者を学習活動に参加させ、子どもとどのように取り組んでいく必要があるかについて助言し、個別教育計画を作成すること。 • 対象児を他の子どもと比較せず、その子どもの成長を評価する必要がある。 • 学習において遅れがある子どもを指導している教員は、その子どもに適した教材、手引き、ツールを準備する必要がある。 • 対象児の好きなことや趣味などを活かした指導法を取り入れること。 • 子どもがやり遂げたことに対して褒めること。 • 子どもに時間を与えること。 • クラスメートに正しく理解してもらうこと、クラスメートの協力を促すこと。そのために教員が一緒に取り組むこと。 • 対象児を部活など放課後活動に参加させ、才能を見つけ出し、伸ばしてあげること。社会性を積極的に促すことで自立能力を身に付けさせる。 • 対象児の能力に合った宿題を出すこと。

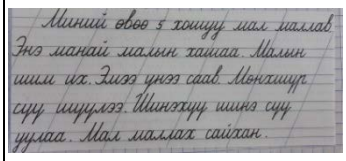
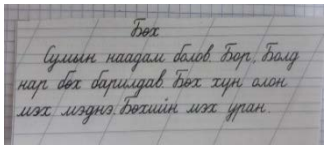
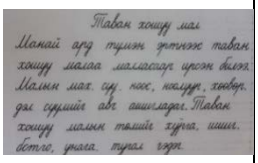
該当するカテゴリー：

2. 読む

4. 書く

1. 学年	2 年生
2. 実施期間	2～3 学期
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	• 書き写す時に間違える。 • 暗記して書けない。 • 文字を飛ばして読むなどの間違いをする。 • 暗記したことを書く時に長母音字、一部子音を間違える。 • 対象児は身体的に健康であり、知的にも問題がないが、授業において集中力がない。 • 性格は不安定である。 • 自立して何かに取り組む能力は低い。 • 学習において同年代の子どもたちより遅れている。
4. 考えられる理由	• 単語の形を覚え、理解することができない。 • 聞いたことを言葉に表すことができない。 • 目で追って読むことができない。 • 違うことに注意を向ける。例えば、単語の意味などを説明している時に集中させることができない。
5. 合理的配慮と具体的な支援内容	<u>学習内容、指導法における工夫、配慮（教材選びを含む）</u> • 対象児の集中力が低く、すぐに他の事に注意を向けてしまうことを考慮にして対象児の席を一番前に配置した。 • 対象児をどのように指導して行くかについて学校のワーキングチームと協力して計画を立てて取り組んだ。 • 対象児の宿題を個別に準備して渡すようになった。 • 担任は指導法を改善した。
	単語を音節で区別し、色で区別した。こうした課題を対象児と同じような子どもたちにも与えている。 Төл мал Хургэ, ишиг,унага, тугал, ботыг төл мал гэнэ. Хавар төл мал төллөнө. Мал төллөхөд хүүхэд тусална. Төлөөр мал өснө. Төл бүрийг мал болгохын төлөө хүн бүр мэрийнэ. Тарган мал тал бүрийн ашигтай.  Бороо Ширүүн бороо орлоо. Болд Сүхээ, Наран нар бороонд норсон. Аадар бороонооc бид айсан. Борооны дараах үнэр их сайхан. Бурмаа бороонооc их айлаа. Салхи салхилан ширүүн бороо орсон. Хүмүүс бороо ороход үнэр саасан. Нараа бамбаруушаар наадав. Хүүхдүүд бороо ороход бөх барилдав.  Хүүхдүүд Хүүхдүүд нөмөн сан орлоо. Бурмаа бөп авлаа. Бадмаа бурөл өөөдөө үнсүүлэв. Бадмаа, Бурмаа, Балдан 3 бамбаруууд авсан. Би бүрээ үлээлээ. Балдан, Болд нар бөх барилдав. Болд бөхийн мэхээр уран барилдан хийсэн. Хүүхдүүд бурам идсэн.  Too бодоорой Too бодвол толгой сэргэдэг хэмээн багш байнга хэлдэг. Багш биднээр байнга too бодуулдаг. Тав дээр хэдий нэмбэл арав гарах вэ? Арваас хэдийг хасвал та гарах вэ? гэх мэт өдөр бүр too бодлого асуудаг. Тамираа, Тунгалаг, Төмөр гурав тоондоо хамгийн сайн хүүхдүүд.  1. Эхийг ойлгож сайн уншаарай. 2. Эхийг үеэр тасалж бичээрэй 3. Эхээс эр , эм үг тус бүр 3-г түүж бичээрэй. Урц Цаатан ардууд тайгад нутаглаадаг.Цаатан хүмүүс урцанд амьдардаг.Урцыг модны гишүү болон өвсөөр барьдаг.Цаатанууд цаа бугыг ургаглаа ашиглаадаг.Махын хүнсэнд хэрэглэдэг.  Наадам Хүмүүс наадмаар хурдан морио у-рал-дуу-лав. Миний өвөө 2 шүдлэн сойсон. Ах дүү 2, шүдлэн унаад наадамд уралдав. Ахын унасан шүдлэн айрагдав. -Хэн хэн хурдан шүдлэн унав.
	難しい単語を分かりやすくする。  1.Эхийг ойлгож уншаарай 2.Эхийг үеэр тасалж бичээрэй 3.Эхээс эр, эм үг тус бүр 3-г түүж бичээрэй. Дэрс бутны дээгүүр дээр дээр **харайна.** Хагд өвсний дундуур дэвхрэн дэвхрэн **үзэгдэнэ.** Урьхан хөөрхөн хошуу нь шомбос шомбос **хөдлөнө.** Урсгал номхон нуд нь бүлтэс бүлтэс **анивчина.**

書き写しのためのお手本を準備する。

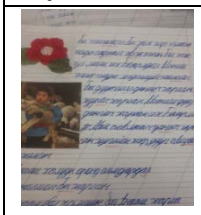
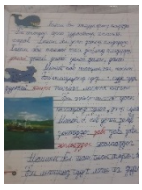
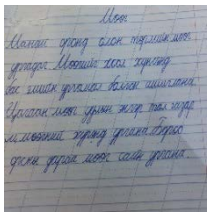




周囲（クラスメート、他の教員、保護者など）に対する取り組み
保護者と一緒にある程度協力して取り組み、助言を行った。

その他
ワーキングチームで取り組む活動計画：

№	実施する活動	期間	担当教員
1	対象児の実態能力に適した宿題を用意する	1 月 14 日	ワーキングチーム
2	短文を読ませる、内容を話してもらう。	月曜日、水曜日	デジドマー ボヤンヒシグ
3	暗記したことを書かせる。	月曜日、水曜日	デジドマー
4	時間を図って読ませる	火曜日、木曜日	テルビシドラム トゥメンジャルガル
5	対象児の保護者に助言をし、協力する。	毎日	デジドマー（担任）

6. 実施した活動の成果、改善点

実施前	実施後
1 分に 10~18 個の単語を読む。音節を分かっているが、読むスピードは遅い。	30 個以上の単語を読むようになった。
暗記したことを書く時に母音字、子音字を間違える。	暗記したことを書く際の間違いが少なくなった。
黒板に書いたことをノートに書き写す時に間違える。	板書を書き写す時にほとんど間違えなくなり、文字を綺麗に書くようになった。
集中力が続かない。	話す能力が向上した。
学習において同級生より遅れている。	私はできるという自信がついた。
 	
個別に子どもの実態能力にあった宿題を用意する必要がある。 放課後、個別に指導したことが効果的だった。	

7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想

- 対象児は短期間でいろいろな進歩がでた。
- 対象児の性格、発達、生活環境、両親の学歴などを良く調査し、実態を把握したうえで教員が適切な指導法で取り組み、工夫や配慮ができれば、子どもはある程度成長できるということを実感した。

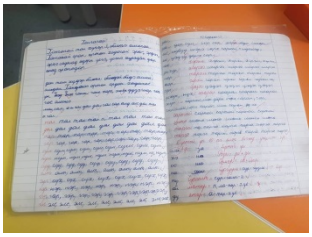
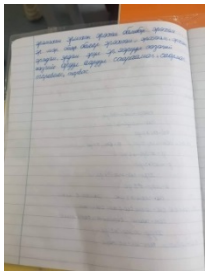
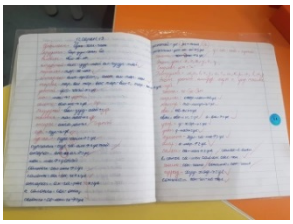
	• ワーキングチームと協力して取り組んだため、短期間で成果が得られたと思う。 • 1 つのチームとして協力した教員たちに感謝したい。 • 対象児自身が毎日宿題に積極的に取り組んでくれたことに、担任としてとても喜びを感じている。 • このプロジェクトが当校で実施されたことにより、子どもは自分の能力にあった指導を受け成長した。教員たちも互いの協力することによって新しいことを学び、指導法においても豊かな経験を得ることができたと確信している。

該当するカテゴリー：

4.　書く

1.　学年	4 年生
2.　実施期間	2018 年 9 月～2019 年 3 月
3.　子どもの特徴、学習において見られる問題点	• 黒板が良く見えない。（視力が弱い） • 暗記して書くことができない。 • 色を区別できない。 • 単語を音節でわけることができない。 • 2 の段と 5 の段の九九は覚えているが、他は覚えていない。
4.　考えられる理由	• 視力が弱いため、全ての教科に遅れがある。 • 対象児はカザフ族のため、モンゴル語で話すことや書くことが苦手 • 視力が弱いため、色を区別できない。 • 文字を知っているが、書く時は間違える。 • 物事の関係性を考える能力が低い。 • 教員がモンゴル語で言う単語をカザフ語で書き、母音字を足して書いてしまう（例えば、эрдэм-эрэдэм（学問）、эрхэм – эрэмэхэн（大切な）、бяр – баяр（力）、баяр – баяар（祭り）、тарвас -таравас（スイカ））。
5.　合理的配慮、具体的な支援内容	<u>学習内容、指導法の工夫、配慮</u> • 教室の中では対象児の席を一番前の列に配置した。 • 対象児の保護者と協力し、視力を検査してもらい眼鏡をかけるようにした。 • 教員は対象児のために大きな文字で書いた教材を用意するようになった。 • 教員は対象児と話し、理解したことをノートに書かせている。 • 対象児に色紙を使って明るい色から教えて覚えさせている。 • 毎日、色を覚える楽しいゲームをさせる。 • 対象児に暗記したことを書かせるために、対象児自身に大きな声で言わせて書かせている。 • 歩き、歌、絵カードなどを活用して 3 の段、4 の段の九九を暗記させている。 • 対象児に九九を暗記させるために、九九を聞かせ、対象児自身に復唱させる方法を使っている。 • 授業の時は常にモンゴル語で話すようにしている。 • 放課後前後や家に帰る時に 2 つ、3 つの音節からなる単語を書いてくる課題を出している。 • 童話を常に読ませている。
	<u>施設環境面における工夫、配慮</u> 対象児のために別に教室を整備した。色のカード、形、明るい色の粘土などの教材を用意した。学校の 4 つの棟の外にスロープを作った。
	<u>周囲（クラスメート、他の教員、保護者など）に対する取り組み</u> • 以前は年に 1 回程しか話せなかった保護者だが、対象児の保護者に対象児の学習能力が上がっていることを伝えるようになっ

<table>
<tr><td></td><td>てから、今は毎週時間がある時に学校に来て教員に会い、時間がない場合は電話で話すようになった。
• クラスメートに友だちになるように助言している。
• 教科の教員たちに対象児の特徴について説明することにより、対象児に対する教員たちの指導法は変わってきた。</td></tr>
<tr><td></td><td><u>その他</u>
• 対象児の保護者に対して娘と毎日話すように助言した。
• できれだけ家ではモンゴル語で話すように助言した。</td></tr>
<tr><td>6. 実施した活動の成果、改善点</td><td>• 対象児はクラスメートと比べて学習面で遅れが見られなくなった。（ある日の子どもと保護者の会議で対象児は「先生が私をクラスの中の優秀な生徒の 1 人になっていると言った」と話していた。）
• 教員は黒板に書いたものではなく、個別に用意した教材を活用するようになった。
• 対象児は明るい色を区別できるようになった。今は中間色や形を覚えている。

• 対象児は形や粘土で作品を作ることが好きになった。
• 対象児の保護者と協力して視力検査を受け、対象児の視力にあった眼鏡をかけるようにした。
• 対象児に暗記したものを書かせる時は、対象児自身に大きな声で言わせて書かせたところ、間違いが少なくなった。
   
• 対象児は教室の壁に貼ってある九九を良く見ることができないため、教員が先に言って対象児に復唱させて覚えさせた。
 </td></tr>
</table>

	• 対象児は教員やクラスメートと楽しくコミュニケーションができるようになった。 • 対象児の保護者は以前保護者会議に参加することや教員に会うことがなかったが、今は週に 1 回は教員と会い、対象児の成長をとても喜んでいる。
7. 成果を振り返り評価した担任の教員の感想	プロジェクト活動に参加する前： 対象児がカザフ族の子どもだったため、モンゴル人の子どもと話すより難しかった。さらに対象児は九九を覚えていない、色の区別ができない、板書を見て正しく書き写せない、形の区別ができない、暗記して書くことが苦手など､クラスの中で学習の遅れが目立った。 プロジェクト活動に参加した後は以下のような変化が見られた。 - 分からないことを教員に聞くようになった。 - 色を区別できるようになった。 - 円形、三角形の区別ができるようになった。 - 暗記したことを書く際の間違いが少なくなった。 - 粘土できれいな作品を作るようになった。 - 創造力が豊かになった。 多くの成果が得られた。最も重要なことは、対象児の保護者が教員と会うようになったことである。子どもの成長を見て非常に喜んでいる。「うちの子どもはなぜこんなに良くなっているのか」という発言も聞かれた。

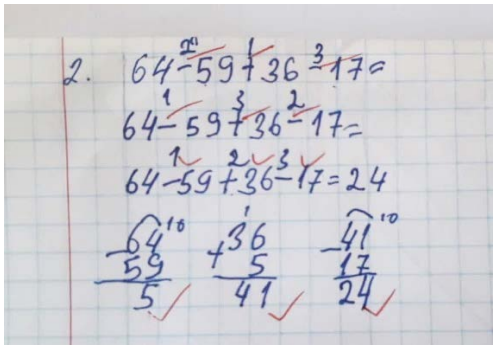
該当するカテゴリー:

5. 計算する

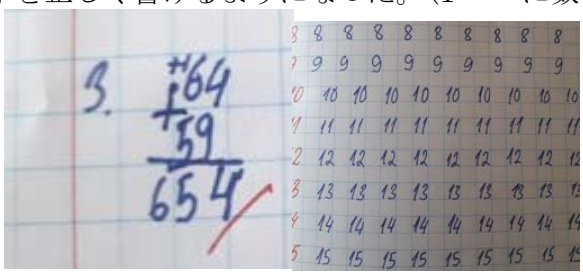
1. 学年	2 年生
2. 実施期間	2018 年 11 月～2019 年 5 月
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	• 10 以内の計算をする時に間違える（指を使わずに） • やることの順番を間違える。 • 筆算の時は桁を間違える。 • 繰り上げあるいは繰り下げた数字を忘れる。 • 文章題を解くことができない。
4. 考えられる理由	• 対象児はいつも授業を欠席しているため、学習が遅れがち。 • 数字の意味がわからない。 • 想像力が弱い。 • どれを先にやるかが分からない。 • 自分のできることからやるので順番を間違える。 • 算数の授業に集中できない。 • 文章題を読んで意味が分からない、想像することができない。
5. 合理的配慮、具体的な支援内容	<u>学習内容、指導法における工夫、配慮</u> • 対象児の席を教員の席の近く、一番前の列に配置する。 • 対象児が 10 以内の足し算と引き算ができるように指導する。 • 対象児が数字や方程式の名前を言えるように指導する。 • 対象児に数字の書き方を身に付けさせる。 • やることの順番を正しく決めることができるように指導する。 • 文章題を読んで理解できるようにする（絵や簡単な文章などを書けるようにする）
	<u>施設設備における工夫、配慮</u> • START プロジェクトにより合理的配慮を整備し、「子ども発達センター」を開設した。
	<u>周囲（クラスメート、他の教員、保護者など）に対する取り組み</u> • 対象児の席をクラスの中で成績の良い子どもと同じ席に配置し、確認し、対象児ができたことを適宜褒める。 • 対象児の進歩をクラスメートに紹介し、奨励する。 • 授業中にどのような課題に取り組んだか、どれに取り組んでいないかについて保護者に報告し、協力する。
	<u>その他</u> • 対象児の保護者と話し、なぜ欠席しているのかについて話し合い、欠席を少なくする方法は何か、その可能性を探った。 • 対象児の父親は地方に仕事で出張することが多い。母親は乳児がいるので学校に送迎する人がおらず、学校に行かせない時がある。 • 欠席を少なくするために、対象児の家と近いクラスメートと一緒に行くようにした。
6. 実施した活動の成果、改善点	• 授業中に課題への取り組みを観察できるように、一番前の列に席を配置した。また、成績の良い子どもを対象児の隣の席にし、授業中に支援するようにお願いした。

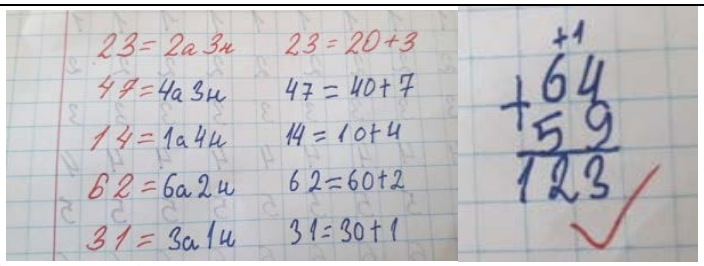
- 対象児は箸やひつじの踝を使って 10 以内の足し算と引き算ができるようになった。
- 暗算する力を身に付けさせるために、指を使って計算ができるように指導した。例えば：7+いくらで 10 になりますか？と聞いて、指 7 本を出してもらって、残りの指は何本ですか？などと教えた。今は 10 以内の足し算と引き算ができるようになった。

- 普通の足し算、引き算と足し算、引き算と足し算の混ざった計算式を解けるようになった。
  計算に順番をつけるようになった。
  計算間違いを自分で見つけて修正できるようになった。
  計算の順番を決めたあとに計算をするようになった。

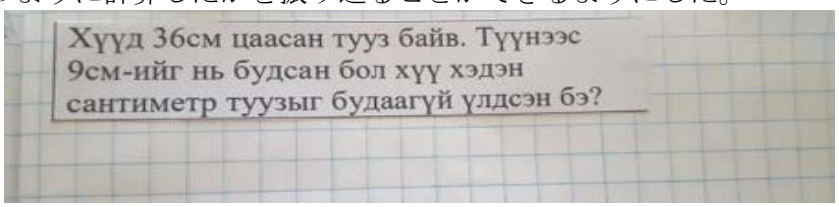


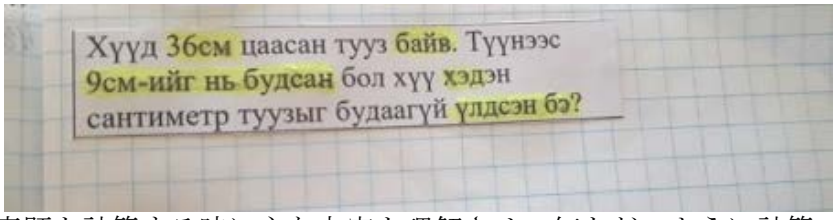
- 数字を正しく書けるようになった。（1 コマに数字を 1 つ書く）

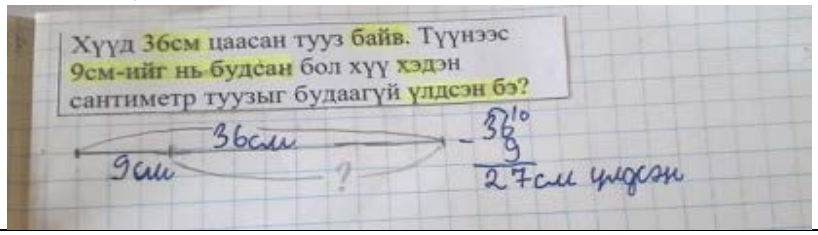


<table>
<tr>
<td></td>
<td>


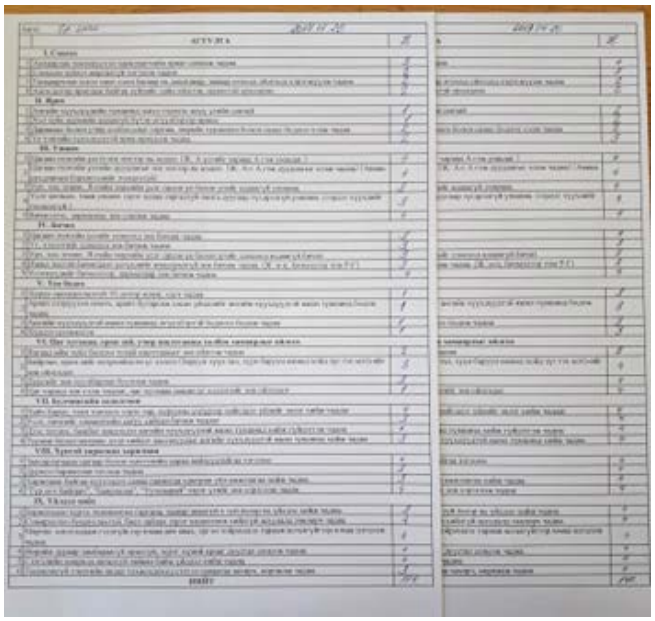
• 数字の桁を分解させ、10 の桁の意味を教えた。（学習にマッチを使った。）

• 文章題の文章を別に用意し、ノートに貼り、その後にどんな問題をどのように計算したかを振り返ることができるようにした。


• 文章題のポイントをハイライトにして対象児に何度も読み、イメージができるようにした。


• 文章題を計算する時に主な内容を理解させ、何をどのように計算するかを理解させることが重要である。


</td>
</tr>
<tr>
<td>7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想</td>
<td>
• 対象児に 2018 年 11 月 20 日にチェックリストを使ってアセスメントしたところ、算数の課題があったため、算数の能力を向上させることを中心に取り組んだ。
• 個別教育計画を作成して取り組んだ結果、対象児は短期間で進歩がみられた。
• 学習に対して意欲をもつようになり、宿題をするようになった。また、授業に積極的に参加するようになった。
• 数字の意味を理解し、暗算ができるようになった。
• 計算の順番が分かるようになった。また、計算間違いしたところ
</td>
</tr>
</table>

	を気づくことができるようになった。 • 保護者の教員との協力が増えた。保護者は教員及び学校の活動をサポートするようになった。 • 2019 年 4 月 20 日に再度チェックリストでアセスメントをしたところ、「算数」の能力だけではなく、その他の能力も向上していた。 

該当するカテゴリー：

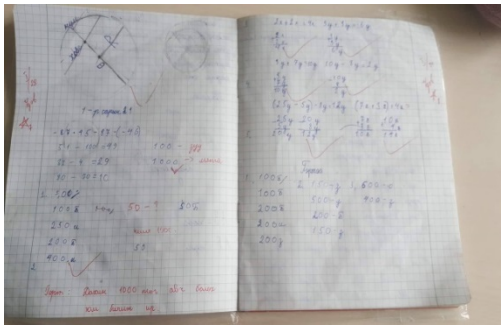
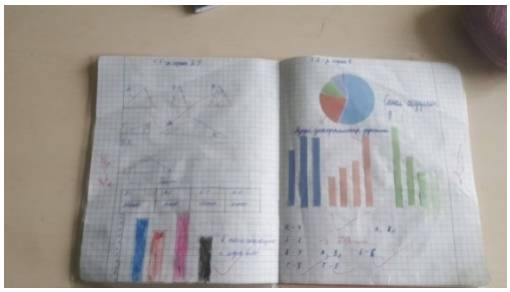
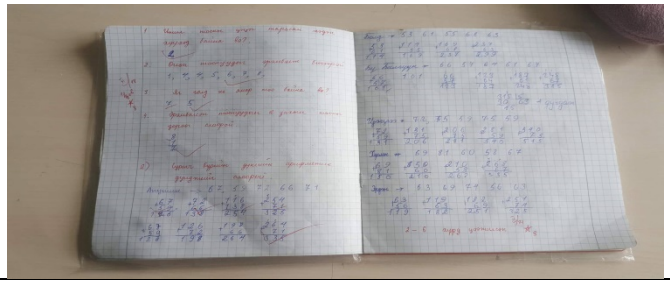
6. 時間、空間、因果関係を理解する

1. 学年	8 年生
2. 実施期間	2018 年 11 月～2019 年 3 月
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	集団で活動する能力が低い（協調性がない）、ルールを守って遊ぶことができない。 ちょっと貸してください、ありがとう、ごめんなさいといった言葉を適切に使えない。
4. 考えられる理由	相手の合図を理解していない。表情の変化や感情を読み取り、理解することができない。 友だちとどのように接したら良いか分からない。
5. 合理的配慮、具体的な支援内容	簡単なルールの遊びをする。（教員も参加する） **チームのルール、役割責任をチームで協力して作ることを試みた。**
	相手がどんな表情をすれば怒るか？など他者の感情や様子を観察する。
	難しいことが起きた時に教員に言うように指導する。 **直面した問題を教員やクラスメートに言い、一緒に解決する手段を身に付けさせるような活動を実施した。**
	対象児に何らかの問題が発生した時は、そのことを対象児に話させ、一緒に振り返り、その原因を考えるようにするためにチームのリーダーにした。
6. 実施した活動の成果、改善点	• 対象児は他者の話を聞く、他者と意見交換をする、他者と協力して決定を出す、他者と適切にコミュニケーションをとる、遊びのルールを守ることなどを理解できるようになった。 • ありがとう、ごめんなさい、ちょっと貸して下さいなどの言葉を適切に使えるようになった。 **改善点** • 相手の表情の変化、感情を読み取ることが苦手な状況である。これを改善しなければならない。

7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想	担任は学校のワーキングチームに参加していない。

該当するカテゴリー：

6. 時間、空間、因果関係を理解する

1. 学年	6 年生
2. 実施期間	2019 年 1 月 22 日～6 月
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	対象児は物事を理解するのが遅い。教員が言っていることを理解し、直ぐにノートに書く能力が低い。コミュニケーションをとることや自己表現力、学習における自立能力が低い。認知能力は良くもない、悪くもない。
4. 考えられる理由	脳に障害を受けており、弱視である。数学の授業が好きだが、読解力が低いため、課題を素早く解くことができない。
5. 合理的配慮、具体的な支援内容	• クラスの他の子たちと同じ内容の授業を、より簡単に分かりやすくして教える（こうすることによって対象児はクラスメートと協力する能力を身に付け、学習における遅れも少なくなる）。 • 対象児は責任感が強く、努力家である。授業を通じて得た知識を日常生活の中で活用できるように宿題を出す（例えば、1000 トゥグルグでどんなものを買ってくることができるか？） • 家族全員の年齢を合わせて平均で何歳ですか？どんな授業が面白いですか？あなたの家に三角形、四角形の家具はいくつありますか？などの質問で数字に慣れさせる。 • よくできたことをほめる。   

	教室の中で対象児の席を一番前の列に配置する。場合によって教員の隣に席を配置する。こうすることで対象児は授業に集中し、教員と話し、理解しやすくなる。
	対象児のみに指導するのではなく、クラス全体に指導を行っている。その理由は対象児の他者とのコミュニケーション、協力する能力を促し、授業以外での社会性を高めるためである。仲の良い友だちと一緒に黒板で計算をする、休みの時間に友だちと一緒に遊ぶ、友だちと一緒に復習する、友だちの感想を聞き、褒める、クラスメートは全員が互いを理解し合うべきだということを理解させること。そのためにクラス全体を対象にしたゲームや試合などを実施している。
	クラスの女子たちに対象児を差別せず、授業において助け合うように助言する。
6. 実施した活動の成果、改善点	対象児は口数が少なかったが、今ではとてもオープンに話ができるようになった。 分からないことや授業について教員に聞くようになった。 教員が好きだと言うようになった。クラスメートと仲良くなった。 九九を覚えた。 1000 以内の足し算と引き算ができるようになった。 対象児の最も大きな変化は教員とより仲良くなり、オープンになった。今後、対象児と一緒に頑張っていくことや対象児の自己表現力を促進する方法をみつけていくことができた。
7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想	対象児は初めて学校に来た時よりもずいぶん変わった。クラスメートと一緒にいることが好きになった。クラス全体の活動に積極的に参加するようになった。教員たちとオープンな会話ができるようになり、自分の意見や感想を教員やクラスメートに表現できるようになった。デザインや技術、数学の授業がとても好きである。

該当するカテゴリー：
7. 身体を動かす

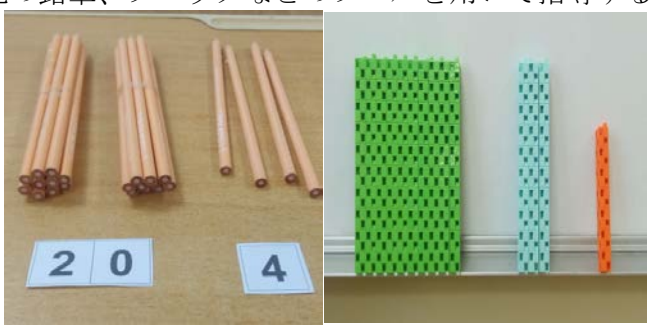
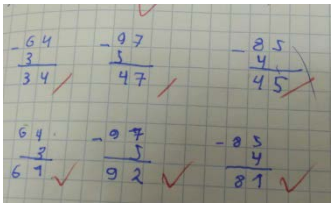
事例なし

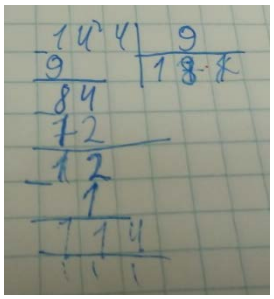
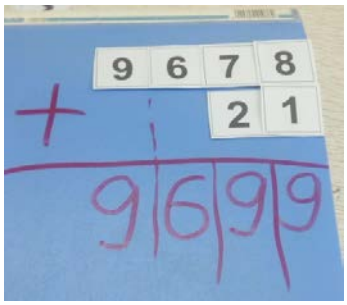
該当するカテゴリー：

5.　計算する

8.　対人関係

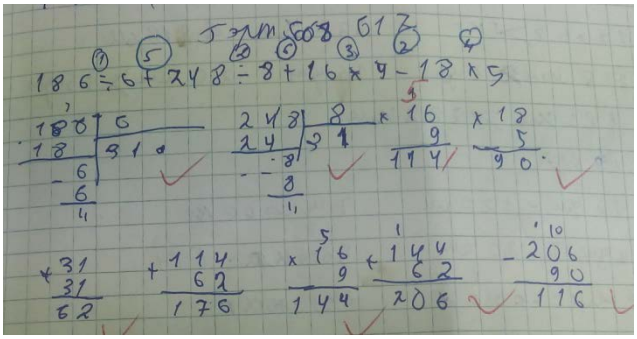
9.　行動（注意散漫）

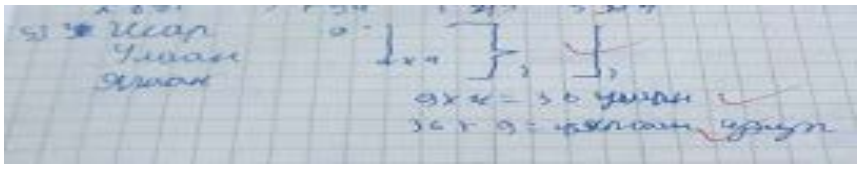
1.　学年	3 年生
2.　実施期間	2018-2019 年度の 2、3 学期
3.　子どもの特徴、学習において見られる問題点	• 桁の概念がわからない。 • 計算の順番をクラスの他の子たちに比べてまだできていない。 • 計算問題の内容や質問を区別できない。
4.　考えられる理由	• 数字を書く時に桁を間違えて書いて計算を間違える。 • 保護者の子どもへの指導が不十分である。また、子どもへの注意が不十分である。 • 集中力が短く、すぐに注意が逸れてしまう。 • 他者の注目を浴びることが好き。そのため様々な行動を起こす。
5.　合理的配慮、具体的な支援内容	学習内容、指導法における工夫、配慮 桁の概念を理解させるために、以下の工夫をした。 A.同じ色の鉛筆、ブロックなどのツールを用いて指導する。  B.授業が始まる前に単位を意識するように言う。  C.1、10、100 の桁を覚えた後、ノートに書く数字を単位を揃えて書くようにし、計算する（教員は黒板に一緒に書く）

<table>
<tr>
<td></td>
<td>



D.隣の席の子どもが書いた数字を自分が書いた数字と照らし合わせる。

1.どの順番で計算するかを考えさせる。
<table>
<tr><td rowspan="2">( )</td><td>×</td><td>+</td></tr>
<tr><td>÷</td><td>−</td></tr>
</table>

2.順番に沿って計算をする。見本に丸をつける。


3.計算問題の内容を理解させるために以下のことに取り組んでいる。
A.問題の計算する部分と質問の部分にハイライトをつける。
B.簡単に書かれた計算問題を読ませる。
C.計算して出した答えを言わせながら書かせる。

</td>
</tr>
<tr>
<td>6. 実施した活動の成果、改善点</td>
<td>環境
• 学校や家で学習したことをノートで確認し、間違いを修正する。
• やや難しい計算や問題を対象児が自分で解いた後、教員が解いたものと照らし合わせて修正する。
• 5〜10 日間の計算キャンペーンを実施し、早く計算することを競う。
• 授業の最後に、ノートに計算問題を 1 題正しく計算できてから家に帰している。</td>
</tr>
</table>

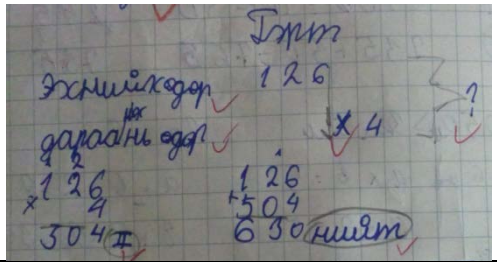
<table>
<tr><td></td><td>

- 難しいことはクラスメート全員に説明し、ノートに記入させている。
- 対象児の保護者に、2 週間に 1 回程度助言を行っている。
- 対象児の計算をする能力が上がり、クラス全体の達成度は 88%になった。
- 対象児は、計算の内容や計算の仕方を考えるようになった。

- 計算して出した答えを必ずノートに書くようになった。
- 省略して書かないようになった。

</td></tr>
<tr><td>7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想</td><td>

- 簡単な方法で適切な教材を選び指導すれば、子どもは計算をすることが好きになる。
- 身近なものを授業に取り込む。
- 手の指を使うことは、子どもたちに長さや重量の関係性を理解させることに有効だった。
- クラス全員が算数の授業に積極的に取り組むようになり、クラス全体の成績が上がった。



</td></tr>
</table>

該当カテゴリー:

9. 行動（注意散漫）

10. 行動（多動・衝動性）

<table>
<tr><td>1. 学年</td><td>11 年生</td></tr>
<tr><td>2. 実施期間</td><td>2018 年 11 月 5 日～2019 年 5 月 20 日</td></tr>
<tr><td>3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点</td><td>学習に遅れがあるため、授業に対して消極的である。目標がない、時間を守れない、欠席が多い、内気な性格であり、口数が少ない。</td></tr>
<tr><td>4. 考えられる理由</td><td>• 時間を守れない。
• 授業以外の時にインターネットをみて時間を過ごすことが多い。
• 責任感が弱い。
• ルールを守れない、集団で活動するのが苦手。</td></tr>
<tr><td>5. 合理的配慮、具体的な支援内容</td><td>

2 学期

取り組んだ活動：

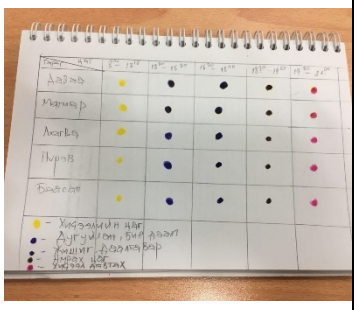
時間を守るようにするために：

-日記を書かせた。教員がノートを買ってあげ、日記の書き方を教えた。

<table>
<tr><td>時間
曜日</td><td>8:00-13:15</td><td>13:30-15:30</td><td>16:30-18:00</td><td>18:30-19:30</td><td>19:30-21:00</td><td>21:00 以降</td></tr>
<tr><td>月曜日</td><td>授業</td><td>練習問題</td><td>部活</td><td>休憩時間</td><td>復習（宿題）</td><td>自由時間</td></tr>
</table>

対象児自身の計画シート

1 日の活動の計画表を作成した。毎日の宿題や自立活動や練習問題をやる時間を計画し、計画に沿って取り組んだ。



学習における遅れを取り戻すために：

- 2 学期に学ぶ各教科で対象児自身が目標を設定し、短期計画を作成した。
- 毎日の宿題や自立活動や練習問題をやる時間を計画し、計画に沿って取り組んだ。

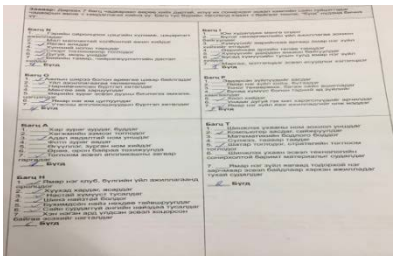
<table>
<tr><td>時間
曜日</td><td>8:00-13:15</td><td>13:30-15:30</td><td>16:30-18:00</td><td>18:30-19:30</td><td>19:30-:21:00</td><td>21:00 以降</td></tr>
<tr><td>月曜日</td><td>授業</td><td>練習問題</td><td>部活</td><td>休憩時間</td><td>復習</td><td></td></tr>
</table>

</td></tr>
</table>

専門を学ぶ：

- 対象児がどんなことに興味があるのかを探るための調査を行った。対象児の 7 つの能力のうちを最も良くできる能力を探り出した。
- 対象児にどんなことが向いているかを探った。
- 対象児が選んだ 5 つの分野のうち、将来におけるニーズと長所と短所を書きだした。

Чадвар	Н буюу туслалцаа зөвлөгөө үзүүлдэг тэдэнтэй ажиллахтай холбоотой сонирхлууд
Сонирхол	Хүмүүстэй ажиллахтай холбоотой сонирхлууд
Хөдөлмөрийн салбар	Маркетинг, аялал жуучлал, батлан хамгаалах, урлаг дизайн, фото зураг, компьютер мэдээлэл хэрэгсэл, хувь хүнд чиглэсэн үйлчилгээ
Мэргэжил	Армийн офицер, улсын байцаагч, урлагийн мэргэжилтэн, хөгжмийн мэргэжилтэн мэдээллийн сан, тестийн инженер



- ルールや時間を守り、チームで活動する能力を促すために 4 人の教員が、対象児に定期的に読書をさせた。読書をすることでその本について感想や考えを対象児に書かせ、意見交換し、協議した。

読書した本：

Sh.イチンホルロー「人間発達」

ション・コビー「思春期に身に付ける 7 つの習慣」

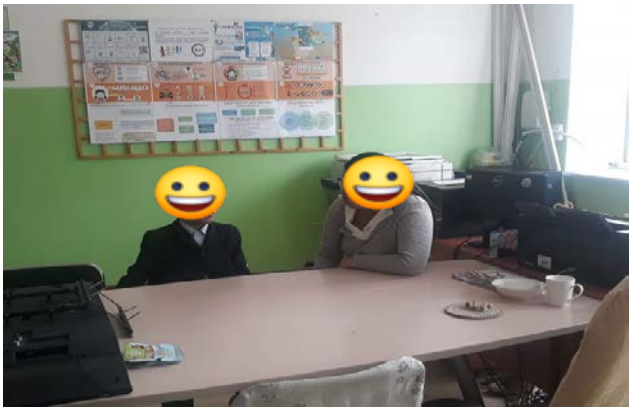
6. 実施した活動の成果、改善点	• 時間の使い方を学んだ。 • 読書し、知的に評価できるようになった。 • 将来の専門の方向性が分かるようになった。 • 自分の意見や考えを表現し、他者と協力できるようになった。

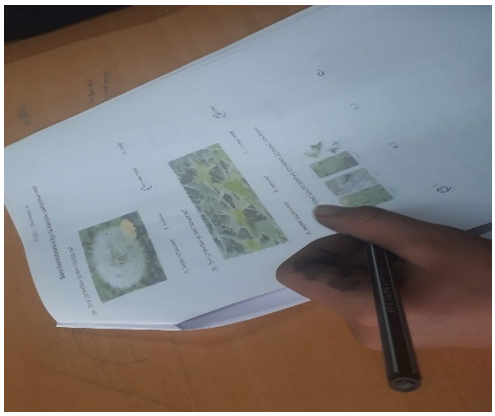
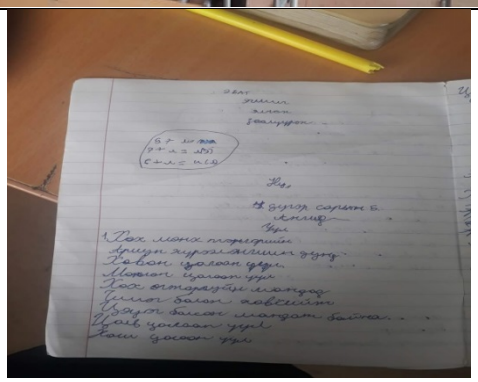
7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想	• 対象児の時間の使い方が良くなった。日記を書き、自分の時間割表をもつようになった。 • 欠席しなくなった。 • 自分の目標をもつようになった。 • 他者とのコミュニケーションを取るようになった。教員に対して自由に意見を言うようになった。 • 自分が何になりたいかについて考えるようになった。 • 情報通信技術のエンジニアになるために数学、情報技術の授業をより集中して取り組むようになった。また、その分野について調べるようになった。

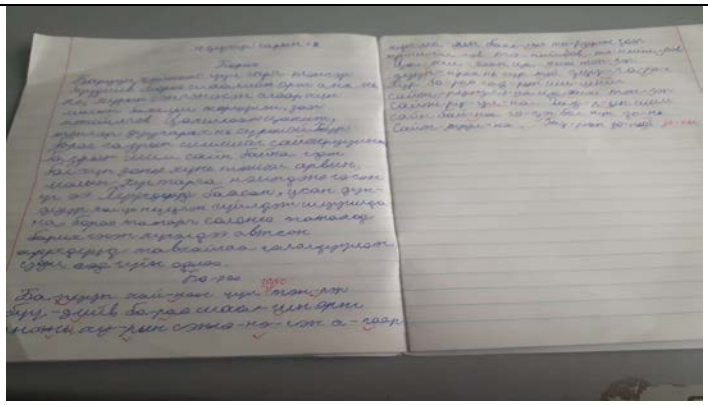
該当するカテゴリー：

9. 行動（注意散漫）

10. 行動（多動・衝動性）

1. 学年	5 年生
2. 実施期間	2018 年 11 月～2019 年 5 月
3. 子どもの特徴、学習において見られる問題点	集中力が続かない。自立して何かに取り組む能力がない。人の話を聞かない。整理整頓が苦手。授業中に落ち着いて座れない。机の上や椅子の上に立つことがある。教室から教員の許可を得ずに飛び出すことがある。急に大きな声で歌いだすことがある。自分勝手な行動が多い。
4. 考えられる理由	対象児に対する家庭の注意が低いため、学習に遅れている。そのため、授業に全く興味を持たない。家を出て外を歩くことや PC ゲームをすることが多くなった。
5. 合理的配慮、具体的な支援内容	<u>学習内容、指導法における工夫、配慮</u> • 対象児の席を一番前の列に配置した。 • 対象児の隣や後ろの席に仲の良い友だちを配置し、一緒に話し合い、授業に一緒に取り組むようにした。 • 宿題を出す時に期日を指定する。
	<u>施設・環境面における工夫、配慮</u> 特になし。
	<u>周囲（クラスメート、他の教員、保護者など）に対する取り組み</u> 心理士に対象児を会わせ、積極的に勉強することについて話し合い、助言した。  学校の合唱部に参加するようになった。
	<u>その他</u> 対象児は祖母と一緒に暮らしている。祖母が学校に来ることができないため、連絡手帳を作ってやり取りした。

6. 実施した活動の成果、改善点	• 宿題を少なめに出すようにした。 • 落ち着いて座るようにするために、時間を予め決めて座らせるようにする。 • 宿題を文章ではなく絵で出す。 • 対象児が興味を持っていることに基づいて宿題を出す。  • 対象児は学校に早く来るため、授業開始前と後に教員と一緒に低学年の子どもたちのノートの修正や宿題の確認などを行っている。
7. 成果を振り返り、評価した担任の教員の感想	 以前は授業内容を最後までノートに書けなかった。



しかし、宿題を少なくし、期日を決めて取り組むようになってから良くできるようになってきた。

前は自分のものを整理することはなかった。

授業中に勝手に席を立って歩きまわっていた。

	<u>現在</u> 対象児は集中力があまりなく、多動で落ち着いて座れなかった。席に落ち着いて座って授業に取り組むようにするために、上述した内容で指導したところ、対象児に変化が見られたことが担任としてとても嬉しい。 クラスの中で自分のものを整理したり、マナーを守るようにするために、対象児をクラスのリーダーにした。また、対象児は歌を歌うことが好きなので学校の合唱部に通わせた。さらに心理士に会わせ、勉強することについて助言をしてもらった。これらの経験は対象児に勇気を与え、頑張ろうという気持ちにさせたと思う。 対象児の保護者と、連絡帳を通じてコミュニケーションを取るようになってから、対象児は朝早く学校に来て勉強するようになった。PC ゲームをしなくなった。教員と話をし、図書館で本を読むようになった。休みの時間を低学年の子どもたちのノートを修正して過ごすようになった。今は 20～30 分間席に落ち着いて座れるようになった。